

奈良県感染症情報センター

奈良県感染症情報センターについて

1. 感染症発生動向調査

感染症発生動向調査は、平成 11 年 4 月から施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下、感染症法)の大きな柱に位置づけられています。感染症患者発生の情報について、正確に把握・分析し、その結果を国民や医療関係者への確に提供・公開することにより、感染症発生の予防や蔓延を防止することを目的に、医師等の医療関係者の協力をうけ、全国的に実施されています。奈良県でも、感染症発生動向調査の結果を迅速かつ的確に活用し、事前対応型の感染症予防対策とするため、奈良県感染症発生動向調査事業実施要綱、同要領に基づき、調査を実施しています。

2. 調査対象感染症

感染症発生動向調査の対象となる感染症は、一類感染症(7 疾患)、二類感染症(5 疾患)、三類感染症(5 疾患)、四類感染症(43 疾患)、五類感染症(44 疾患)、新型インフルエンザ等感染症(2 疾患)及び指定感染症(2 疾患)です。(H26.9 現在)

全数把握対象の感染症とされる「一類感染症から四類感染症の全て」、「五類感染症の一部」、「新型インフルエンザ等感染症」及び「指定感染症」については、全ての医療機関から全ての患者の情報が届出されます(表1)。五類感染症の中で全数把握対象(18 疾患)以外の感染症は定点把握対象感染症(26 疾患)として、知事が指定した定点医療機関により、診断した患者数が週単位(一部は月単位)で報告されます(表2)。

なお、平成 25 年には、対象疾患の追加等が多くありました。

平成 25 年 3 月には、本邦で初めて報告された重症熱性血小板減少性症候群(SFTS)が4 類感染症に追加されました。4 月からは、それまでの髄膜炎菌性髄膜炎に変わって侵襲性髄膜炎菌感染症となり、同時に侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症(すべて五類全数)が追加され、10 月に基幹定点における感染性胃腸炎(ロタウイルスによるものに限る)が追加されました。また、5 月には鳥インフルエンザ(H7N9)が指定感染症とされました。

また、麻しんに関する特定感染症予防指針の一部改正が 4 月 1 日施行され、麻しん患者発生時の対応が強化されています。

表1 全数把握対象感染症(H26.9 現在)

類別	疾患名
一類	(1)エボラ出血熱、(2)クリミア・コンゴ出血熱、(3)痘そう、(4)南米出血熱、(5)ペスト、(6)マールブルグ病、(7)ラッサ熱
二類	(1)急性灰白髄炎、(2)結核、(3)ジフテリア、(4)重症急性呼吸器症候群(病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)、(5)鳥インフルエンザ(H5N1)
三類	(1)コレラ、(2)細菌性赤痢、(3)腸管出血性大腸菌感染症、(4)腸チフス、(5)パラチフス

四類	(1)E型肝炎、(2)ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)、(3)A型肝炎、(4)エキノコックス症、(5)黄熱、(6)オウム病、(7)オムスク出血熱、(8)回帰熱、(9)キャサスル森林病、(10)Q熱、(11)狂犬病、(12)コクシジオイデス症、(13)サル痘、(14)重症熱性血小板減少症候群(病原体が SFTS ウイルスであるものに限る)、(15)腎症候性出血熱、(16)西部ウマ脳炎、(17)ダニ媒介脳炎、(18)炭疽、(19)チクングニア熱、(20)つつが虫病、(21)デング熱、(22)東部ウマ脳炎、(21)鳥インフルエンザ、((鳥インフルエンザ(H5N1,H7N9)を除く))、(24)ニパウイルス感染症、(25)日本紅斑熱、(26)日本脳炎、(27)ハンタウイルス肺症候群、(28)Bウイルス病、(29)鼻疽、(30)ブルセラ症、(31)ベネズエラウマ脳炎、(32)ヘンドラウイルス感染症、(33)発しんチフス、(34)ボツリヌス症、(35)マラリア、(36)野兔病、(37)ライム病、(38)リッサウイルス感染症、(39)リフトバレー熱、(40)類鼻疽、(41)レジオネラ症、(42)レプトスピラ症、(43)ロッキー山紅斑熱
五類	(1)アメーバ赤痢、(2)ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)、(3)急性脳炎、((ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く))、(4)クリプトスポリジウム症、(5)クロイツフェルト・ヤコブ病、(6)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(7)後天性免疫不全症候群、(8)ジアルジア症、(9)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(10)侵襲性髄膜炎菌感染症、(11)侵襲性肺炎球菌感染症、(12)先天性風しん症候群、(13)梅毒、(14)破傷風、(15)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(16)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(17)風しん、(18)麻しん
新型インフルエンザ等	(1)新型インフルエンザ、(2)再興型インフルエンザ (H26.9 在、「新型インフルエンザ」として指定されているインフルエンザはありません。)
指定感染症	(1) 中東呼吸器症候群(MERS) (平成 26 年 7 月追加) 、(2) 鳥インフルエンザ(H7N9)

表2 定点把握対象感染症

疾患名(五類感染症)	患者定点
(1)RSウイルス感染症、(2)咽頭結膜熱、(3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(4)感染性胃腸炎、(5)水痘、(6)手足口病、(7)伝染性紅斑、(8)突発性発しん、(9)百日咳、(10)ヘルパンギーナ、(11)流行性耳下腺炎	小児科定点 (週単位:35 定点)
(1)インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)	インフルエンザ定点 (週単位:55 定点) 基幹定点(入院) (週単位:6 定点)
(1)急性出血性結膜炎、(2)流行性角結膜炎	眼科定点 (週単位:9 定点)
(1)性器クラミジア感染症、(2)性器ヘルペスウイルス感染症、(3)尖圭コンジローマ、(4)淋菌感染症	性感染症定点 (月単位:9 定点)
(1)クラミジア肺炎(オウム病を除く)、(2)細菌性髄膜炎、(3)マイコプラズマ肺炎、(4)無菌性髄膜炎、(5)感染性胃腸炎(ロタウイルスによるものに限る)	基幹定点 (週単位:6 定点)
(1)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(2)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(3)薬剤耐性アシネトバクター感染症※、(4)薬剤耐性緑膿菌感染症	基幹定点 (月単位:6 定点)

3. 奈良県感染症情報センター

奈良県感染症情報センターは、患者情報、病原体情報を収集、分析し、全国情報と併せて速やかに情報提供する事を目的として、奈良県感染症発生動向調査実施要綱により奈良県保健研究センター内に設置されています。センターでは、医療機関等から報告された感染症情報を国へ報告するとともに、疾患別、地域別などの疫学的解析を加えて、毎週の感染症情報として編集し、医療機関や教育機関、市町村関係機関等約 500 施設を対象に、電子メールにより還元するなどして、感染症予防の啓発に取り組んでいます。感染症情報には、「外来状況」(隔週)や「保健研究センターだより」(毎月)等速報性・専門性の高い記事等を掲載し、中でも、外来状況は、各地区の担当開業医師が自ら感じ取った情報をいち早く還元しており、地域における感染症の状況を伝えるものとして貴重であり、将来の感染症対策に活用されるものと考え、ここに掲載します。



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC
（奈良県保健環境研究センター内）

● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 流行感染症情報：感染性胃腸炎

（調査週）平成 25 年 第 2 週 1 月 7 日（月）～1 月 13 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	6.86	→～↓	→～↓	→	→～↓
2	インフルエンザ	4.56	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
3	水痘	0.91	→～↓	→	→～↓	↓
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.89	→～↑	→	↑	↑↑
5	RS ウイルス感染症	0.51	→～↓	→～↓	↓	↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は270例で、前週報告の126例から急増。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②インフルエンザ、③水痘、④A群溶連菌咽頭炎、⑤RSウイルス感染症の順。インフルエンザの報告数（105例）は、急増。感染性胃腸炎の報告数（117例）は、ほぼ倍増。A群溶連菌咽頭炎の報告数（13例）は、増加。水痘の報告数（14例）は、やや増加。RSウイルス感染症の報告数（9例）も、やや増加。また、インフルエンザ定点からの報告は、奈良市HC管内；46例、郡山HC管内；59例の計105例、定点当たりの報告数は3.89だった。基幹定点からの報告は、奈良市HCおよび郡山HC両管内ともになかったが、眼科定点からの報告は、郡山HC管内より流行性角結膜炎が2例あった。

（村井 記）

県北部外来状況 外来患者数は正月明けで多くない。感染性胃腸炎は10才以上成人まで多くなっているが、小学生以下はほとんど無くなっている。水痘が流行しかけ、RSウイルス感染症が時にみられる。インフルエンザは徐々に増加してきた。迅速検査ではA型が大部分で、精密検査ではAH3N2の報告をうけている。

（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、128例から255例と急激に増加した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、インフルエンザ、水痘、A群溶連菌咽頭炎、RSウイルス感染症・咽頭結膜熱の順であった。感染性胃腸炎は、71例から96例と横ばいであり、インフルエンザは、23例から119例と急増している。定点当たりのインフルエンザ患者の報告数は、5.41と県内で最も高い値を示している。眼科定点からは、流行性角結膜炎5例（桜井保健所より4例、葛城保健所より1例）の報告があった。基幹定点からの報告はなかった。

（高木 記）

県中部外来状況 外来数は多くない。今週になってからインフルエンザが急増。学童を中心に次第に幼稚園児に派及してきた。殆どA型であるが、内科でB型の両親と子どもの家族3例があった。いずれも軽症。感染性胃腸炎は減少傾向であるが、ノロ様の嘔吐例が続いている。ロタはない。その他水痘が少し続いている。

（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第1週→第2週）は66例→72例と増加。報告のあった疾患は、①インフルエンザ（4例→27例）、①感染性胃腸炎（40例→27例）、③RSウイルス感染症（8例→7例）、④A群溶連菌咽頭炎（4例→4例）、⑤水痘（3例→2例）、⑤流行性耳下腺炎（4例→2例）、⑦咽頭結膜熱（0例→1例）、⑦突発性発疹（3例→1例）、⑦流行性角結膜炎【眼科定点】（0例→1例）であった。

（柳生 記）

県南部外来状況 外来数は横這い～やや増加程度。第2週になりインフルエンザが出始め、連休明けの今週から急増している。全てA型。成人、中高生から小学生、保幼へと拡がりつつある。母親から乳児への例もあった。ノロと思われる感染性胃腸炎もまだ多い。（昨年5月から7月の感染性胃腸炎で保環研にウイルス検査提出陰性例で追試の結果、数例でサボを同定したとの報告があった。いずれも幼児で、数回の嘔吐と下痢（濃ベージュ、クリーム色）、発熱なしであった。）鼻汁、喘鳴のRSV感染症も引き続き認めるが重症例はない。マイコプラズマ感染症、アデノウイルス感染症、流行性耳下腺炎、水痘なども流行が見られる。

（山本 記）



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC
 （奈良県保健環境研究センター内）



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 流行感染症情報：インフルエンザ
- 月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（12 月月報）



（調査週）平成 25 年 第 4 週 1 月 21 日（月）～1 月 27 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	インフルエンザ	22.98	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	5.26	→～↓	→～↓	→	↓
3	水痘	0.83	→～↓	→	→～↓	↓
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.71	→	↑	→～↓	↓
5	RS ウイルス感染症	0.49	→～↓	→～↓	→～↓	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は716例で、前週報告の426例から激増。上位5疾患は、①インフルエンザ、②感染性胃腸炎、③A群溶連菌咽頭炎、④水痘、⑤RSウイルス感染症の順。インフルエンザの報告数（276→577例）が、激増。A群溶連菌咽頭炎の報告数（18例）は、増加。水痘の報告数（16例）は、ほぼ横ばい。RSウイルス感染症の報告数（9例）も、ほぼ横ばい。感染性胃腸炎の報告数（89例）は、減少。また、インフルエンザ定点からの報告は、奈良市HC管内；272例、郡山HC管内；305例の計577例、定点当たりの報告数は21.37だった。眼科定点と基幹定点からの報告は、奈良市HCおよび郡山HC両管内ともにすべてなかった。

（村井 記）

県北部外来状況 インフルエンザは流行期に入っています。乳児から老人まで感染者がみられます。迅速検査ではA型が大部分で、精密検査ではAH3N2の報告をうけています。症状は軽度の方が多い印象です。ワクチン既接種者の罹患者は5分の1程度で、症状も抑えられています。感染性胃腸炎は中学生以上が大半でこちらも症状は軽度です。保育園児で水痘が流行してきました。RSウイルス感染症も数は少なくなりましたができています。

（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、443例から687例と増加した。上位5疾患は、インフルエンザ、感染性胃腸炎、水痘、RSウイルス感染症・A群溶連菌咽頭炎の順であった。インフルエンザは、341例から573例と急増している。定点当たりのインフルエンザ患者の報告数は、15.50から26.05と増加し、県全域注意報の中で最も高く、さらに葛城保健所管内は33.73と、警報の域に入った。感染性胃腸炎は、76例から86例と横ばいである。基幹定点および眼科定点からの報告はなかった。

（高木 記）

県中部外来状況 外来数は増加。インフルエンザが急増。A型がやや多いがB型もほぼ同程度に流行中。乳幼児も増加してきた。軽症傾向で、発熱後一旦無熱～微熱になった後の再検査で陽性判定の例もあり通学・通園に注意が必要。経過中、1～2回の嘔吐がある例もある。感染性胃腸炎が併せて流行中。嘔吐が主でノロ様であるが幼児の検査では陽性例は少ない。乳児でRS気管支炎が2例続いた。昨年暮れより軽症の印象。その他水痘が少し。

（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第3週→第4週）は93例→133例と増加。報告のあった疾患は、①インフルエンザ（65例→114例）、②感染性胃腸炎（14例→9例）、③突発性発疹（0例→4例）、④RSウイルス感染症（3例→2例）、④流行性耳下腺炎（1例→2例）、⑥A群溶連菌咽頭炎（4例→1例）、⑥水痘（3例→1例）であった。

（柳生 記）

県南部外来状況 当院インフルエンザの状況は第3週から増加し、第4週でピークとなり、今週第5週では早や減少の傾向となっている。迅速検査で全てA型。流行初期のウイルス検査では全てA/H3N2（香港）であった。祖母から感染した2ヶ月の双子乳児例もあったが37度台の発熱が1,2日程度で軽症経過であった。同時に感染した母親は高熱が出たが抗ウイルス剤が著効した。感染性胃腸炎（ノロ疑い）例もあるが少なくなった。中にはキャン



奈良県感染症発生動向調査 還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC
(奈良県保健環境研究センター内)

◆ 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 流行感染症情報：インフルエンザ
- 全数把握対象感染症発生状況（平成25年1月）
- 月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）
発生状況（1月月報）

（調査週）平成25年 第6週 2月4日（月）～2月10日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位5疾患）（5週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	インフルエンザ	21.96				～
2	感染性胃腸炎	5.03				～
3	水痘	1.06	～			
4	A群溶連菌咽頭炎	0.83	～			
5	RSウイルス感染症	0.60	～	～	～	

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は686例で、前週報告の812例から減少。上位5疾患は、インフルエンザ、感染性胃腸炎、水痘、A群溶連菌咽頭炎、RSウイルス感染症の順。感染性胃腸炎の報告数（89例）は、やや増加。RSウイルス感染症の報告数（10例）も、やや増加。水痘の報告数（15例）は、ほぼ横ばい。インフルエンザの報告数（692 553例）は、減少。A群溶連菌咽頭炎の報告数（13例）は、やや減少。また、インフルエンザ定点からの報告は、奈良市保健所管内243例、郡山保健所管内310例の計553例、定点当たりの報告数は、前週の25.63から20.48に減少した。奈良市保健所および郡山保健所両管内眼科定点と基幹定点からの報告は、すべてなかった。（村井 記）

県北部外来状況 インフルエンザの流行は先々週がピークで徐々に減少傾向にある。A型が主だがB型もわずかに増えてきている。感染性胃腸炎は多くなくロタウイルスもまだみられない。保育園児で水痘の流行がある。（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、824例から709例と減少した。上位5疾患は、インフルエンザ、感染性胃腸炎、水痘、A群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱の順であった。インフルエンザは、699例から575例と、流行のピークをむかえている。感染性胃腸炎は、88例から75例と横ばいである。基幹定点および眼科定点からの報告はなかった。（高木 記）

県中部外来状況 外来数は三連休後減少。インフルエンザは三連休後急減した。乾性咳嗽の頑固な例がやや多い。RS気管支炎が数例あった。ノロ様の嘔吐例が続いている。今冬初のロタ腸炎があった。軽症。その他A群溶連菌感染症がわずかにあった。（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第5週 第6週）は120例 102例と減少。報告のあった疾患は、インフルエンザ（98例 80例）、感染性胃腸炎（13例 12例）、RSウイルス感染症（4例 4例）、咽頭結膜熱（1例 2例）、水痘（1例 2例）、A群溶連菌咽頭炎（3例 1例）、突発性発疹（0例 1例）であった。（柳生 記）

県南部外来状況 外来数はさほど多くない。インフルエンザは週を追って減少傾向。依然A型のみでB型は認めず。ワクチン接種済み者などは軽症が多い。感染性胃腸炎も減少。ロタは認めず。他は水痘が少し有った程度。（山本 記）



奈良県感染症発生動向調査 還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC
(奈良県保健環境研究センター内)

◆ 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 流行感染症情報：インフルエンザ
- 保健環境研究センター2月便り

(調査週) 平成 25 年 第 8 週 2 月 1 8 日 (月) ~ 2 月 2 4 日 (日)

奈良県および二次医療圏別発生状況 (奈良県上位 5 疾患) (5 週前からの動向)

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	インフルエンザ	12.73	→~↓	→~↓	→~↓	→~↓
2	感染性胃腸炎	6.06	→	→~↑	→	→~↓
3	A 群溶連菌咽頭炎	1.00	→~↑	→~↑	→	↑
4	水痘	0.77	→	→~↓	→~↑	↑
5	RS ウイルス感染症	0.34	→~↓	→~↓	↓	↑

全県の動きと目立って異なる推移 (定点当りの変化程度で実数ではない) を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は497例で、前週報告の483例から若干の増加。上位5位は、①インフルエンザ、②感染性胃腸炎、③A群溶連菌咽頭炎、④水痘、⑤突発性発疹=RSウイルス感染症の順。感染性胃腸炎の報告数(121例)は、増加。A群溶連菌咽頭炎の報告数(22例)は、やや増加。突発性発疹の報告数(4例)は、横ばい。水痘の報告数(8例)は、ほぼ横ばい。RSウイルス感染症の報告数(4例)も、ほぼ横ばい。インフルエンザの報告数(345→328例)は、やや減少。また、インフルエンザ定点からの報告は、奈良市保健所管内;132例、郡山保健所管内;196例の計328例、定点当たりの報告数は、前週の12.78から12.15と若干の減少。奈良市保健所管内眼科定点から、流行性角結膜炎の報告が2例、また、郡山保健所管内基幹定点からは、マイコプラズマ肺炎の報告が1例(35~39歳症例)それぞれあった。(村井 記)

県北部外来状況 インフルエンザは2月初めより徐々に減少してきている。例年通りA型からB型の比率が増えている。それに伴いRSウイルス感染症や感染性胃腸炎が再び出てきている。水痘の流行も続いている。

(矢追 記)

県中部地区概況 報告数は、451例から443例とほぼ同数であった。上位5疾患は、インフルエンザ、感染性胃腸炎、水痘、A群溶連菌咽頭炎、突発性発疹の順であった。インフルエンザは、350例から326例と減少傾向であるが、定点当たりのインフルエンザ患者の報告数は、14.82と依然、注意報の域である。感染性胃腸炎は、78例から81例と横ばいである。基幹定点および眼科定点からの報告はなかった。

(高木 記)

県中部外来状況 外来数はインフルエンザの減少と共に減少した。インフルエンザは第7週から減少傾向であったが第8週は寒波と共に微増。今冬はA型、B型が同程度に混在して見られた。乳児罹患もあったが概して軽症。感染性胃腸炎はノロ様の嘔吐例が少しずつ持続して見られる。軽症。ロタがほんの僅かにあったが拡大なし。乳児でRSウイルス陽性例が数例続いたが、やや減少した。重症例はなく外来で対応可能であった。その他、A群溶連菌感染症が少し。外来数は多くはないがほぼ横ばい。高熱のアデノ様感冒があったが僅かに減少傾向。年長児でマイコプラズマ様咳嗽例がある。幼児ノロ陽性例があり、年長児もノロ様と思われる例が多い。家族内で、親に感染した例もあった。他に水痘が流行中、流行性耳下腺炎が少し。エコーかコクサッキーと思われる両頬・手・足に発疹が散在する例があった。

(岡本 記)

県南部地区概況 報告数(第7週→第8週)は74例→73例と推移。報告のあった疾患は、①インフルエンザ(43例→46例)、②感染性胃腸炎(17例→10例)、③RSウイルス感染症(6例→6例)、④A群溶連菌咽頭炎(1例→4例)、④水痘(6例→4例)、⑥突発性発疹(0例→3例)であった。

(柳生 記)

県南部外来状況 インフルエンザは第4週をピークに減少していたが、第8週で再びやや増加した。A型のみでB型はまだ全く見られない。ワクチン未接種者ではやや症状が強い傾向が見られた。感染性胃腸炎は少なくなった。RSウイルス感染症が第8週でやや増加した。水痘やや有り。その他の感染症はなかった。

(山本 記)



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC
（奈良県保健環境研究センター内）



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 流行感染症情報：インフルエンザ
- 全数把握対象感染症発生状況（平成 25 年 2 月）



（調査週）平成 25 年 第 10 週 3 月 4 日（月）～3 月 10 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週間からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	インフルエンザ	9.82	～	～	～	～
2	感染性胃腸炎	6.71	～		～	
3	A 群溶連菌咽頭炎	1.06	～			
4	水痘	0.60				
5	RS ウイルス感染症	0.46		～	～	

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は 423 例で、前週報告の 471 例から減少。上位 5 疾患は、インフルエンザ、感染性胃腸炎、A 群溶連菌咽頭炎、水痘、突発性発しんの順。A 群溶連菌咽頭炎の報告数(18 例)は、やや増加。感染性胃腸炎の報告数(114 例)は、ほぼ横ばい。水痘の報告数(9 例)も、ほぼ横ばい。突発性発しんの報告数(5 例)も、ほぼ横ばい。インフルエンザの報告数(315 264 例)は、減少。また、インフルエンザ定点からの報告は奈良市 HC 管内；101 例、郡山 HC 管内；163 例の計 264 例、定点当たりの報告数が 9.78 となり流行終息基準値；10 を下回った。眼科定点からの報告は、奈良市 HC 管内より流行性角結膜炎が 2 例、また、基幹定点からの報告は、郡山 HC 管内より細菌性髄膜炎(65

～69 歳症例)とマイコプラズマ肺炎(25～29 歳症例)が各々 1 例ずつあった。

（村井 記）

県北部外来状況 インフルエンザは激減しています。年少児は罹患者が少なく、小学校高学年以上にみられる。相対的に感染性胃腸炎が目立ってきた。幼児ではロタウイルスがでている。症状は軽く 1 - 2 日で軽快している。RS ウイルス感染症も持続的にみられ、水痘が保育園児で流行しだした。

（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、391 例から 384 例とわずかに減少した。上位 5 疾患は、インフルエンザ、感染性胃腸炎、A 群溶連菌咽頭炎、水痘、咽頭結膜熱の順であった。インフルエンザは、273 例から 226 例と減少傾向であり、定点当たりのインフルエンザ患者の報告数は 10.27 である。感染性胃腸炎は、77 例から 108 例と増加傾向である。眼科定点からは、流行性角結膜炎 1 例の報告が、桜井保健所よりあった。基幹定点からの報告はなかった。

（高木 記）

県中部外来状況 外来数はインフルエンザの減少と共に減少したが激減という程でない。インフルエンザは前週に比べ微増、殆ど B 型となった。ロタウイルスが増加。ノロ様の例もあるが減少。RS は減少した。その他、水痘、流行性耳下腺炎、A 群溶連菌感染症が少し。

（岡本 記）

県南部地区概況 報告数(第 9 週 第 10 週)は 72 例 77 例と推移。報告のあった疾患は、インフルエンザ(49 例 50 例)、感染性胃腸炎(12 例 13 例)、RS ウイルス感染症(5 例 8 例)、A 群溶連菌咽頭炎(1 例 2 例)、咽頭結膜熱(2 例 1 例)、水痘(2 例 1 例)、手足口病(1 例 1 例)、突発性発疹(0 例 1 例)であった。

（柳生 記）

県南部外来状況 漸減傾向であったインフルエンザが足踏み状況となり、第 9 週で初めて B 型インフルエンザを認めたが一部にとどまり、他は殆どが A 型となっている。感染性胃腸炎は多くないが、ロタウイルスが保育所児などで見られるようになった。アデノウイルスも有り。RS ウイルス感染症も少ないが引き続き認める。水痘、A 群溶連菌咽頭炎少し。手足口病もあった。

（山本 記）



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC
 （奈良県保健環境研究センター内）

● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 保健環境研究センターだより最終号：～保環研は生まれ変わります！～

（調査週）平成 25 年 第 12 週 3 月 18 日（月）～3 月 24 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週間からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	6.23	→	→	→	→～↑
2	インフルエンザ	5.93	→～↓	↓	→～↓	↓
3	水痘	0.69	→	↑	→	↓
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.60	→～↓	→～↓	→	→
5	咽頭結膜熱	0.46	↑	→	↑↑	↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は265例で、前週報告の335例から減少。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②インフルエンザ、③水痘、④A群溶連菌咽頭炎、⑤RSウイルス感染症の順。水痘の報告数（13例）は、横ばい。インフルエンザの報告数（172→122例）は、減少。感染性胃腸炎の報告数（107例）は、やや減少。A群溶連菌咽頭炎の報告数（10例）も、やや減少。RSウイルス感染症の報告数（5例）も、やや減少。また、インフルエンザ定点からの報告は、奈良市HC管内；54例、郡山HC管内；68例の計122例、定点当たりの報告数が4.52だった。奈良市HC管内眼科定点から、急性出血性結膜炎の報告が1例、流行性角結膜炎の報告が1例あった。奈良市HCおよび郡山HC両管内、基幹定点からの報告は、すべてなかった。（村井 記）

県北部外来状況 外来患者数はインフルエンザの減少に比例して減少している。感染性胃腸炎は幼児でロタウイルス胃腸炎が流行しているが、ワクチン既接種者は軽度の下痢症状だけでワクチンの効果は絶大である。保育園児で水痘の流行が続いている。（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、372例から320例と減少した。上位5疾患は、インフルエンザ、感染性胃腸炎、咽頭結膜熱・水痘、A群溶連菌咽頭炎の順であった。インフルエンザは、185例と減少傾向であり、定点当たりのインフルエンザ患者の報告数は、8.41である。感染性胃腸炎は、93例と横ばいである。基幹定点からは、マイコプラズマ肺炎1例（5～9歳）の報告が、葛城保健所よりあった。眼科定点からの報告はなかった。（高木 記）

県中部外来状況 外来数は減少。インフルエンザは今週はゼロであった。高熱、咽頭発赤のアデノ様の例が多いが迅速では陰性。乳児でRS気管支炎が流行中、2才児にもあった。ロタウイルスも増加、重症例はない。その他水痘が流行中。（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（第11週→第12週）は51例→50例と推移。報告のあった疾患は、①インフルエンザ（17例→19例）、②感染性胃腸炎（17例→18例）、③RSウイルス感染症（9例→4例）、③突発性発疹（2例→4例）、⑤咽頭結膜熱（1例→2例）、⑤A群溶連菌咽頭炎（3例→2例）、⑦手足口病（0例→1例）であった。（柳生 記）

県南部外来状況 外来数は減少している。インフルエンザはまだ散見し、横這いが続いている。A型の他、B型も市外に通学する学生や、関東から帰省した子供などで見られる。今シーズンA型は殆どがAH3N2の模様であったが、2月下旬の1例でAH1N1pdmの報告があった。感染性胃腸炎はロタが少し多くなっているが、アデノもやや見られる。A群溶連菌咽頭炎、水痘の他、手足口病もあった。RSウイルス感染症もまだ少し見られる。（山本 記）





平成 25 年 4 月 12 日 金曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報 (週報)

奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター内) [Nara IDSC](http://www.nara-idsc.jp)

今週の概要

- 第 14 週の感染症情報
- 気になる話題：中国での鳥インフルエンザについて 

第 14 週の感染症情報(4月1日(月)~4月7日(日))

奈良県および医療圏別発生状況 (奈良県上位 5 疾患) (5 週間からの動向)

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	6.11	→	→~↓	→	→~↑
2	インフルエンザ	2.27	↓	↓	↓	↓
3	水痘	0.60	→	→	→	↑
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.46	→~↓	→~↓	↓	↑
5	咽頭結膜熱	0.26	→~↓	↓	→	→

全県の動きと目立って異なる推移 (定点当りの変化程度で実数ではない) を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は 167 例で、前週報告の 208 例から減少。上位 5 疾患は、①感染性胃腸炎、②インフルエンザ、③水痘、④A 群溶連菌咽頭炎、⑤手足口病 = 突発性発しんの順。手足口病の報告数 (3 例) は、やや増加。A 群溶連菌咽頭炎の報告数 (8 例) は、ほぼ横ばい。突発性発しんの報告数 (3 例) も、ほぼ横ばい。感染性胃腸炎の報告数 (85 例) は、減少。インフルエンザの報告数 (52 例) も、減少。水痘の報告数 (10 例) は、やや減少。また、インフルエンザ定点からの報告は、奈良市 HC 管内; 18 例、郡山 HC 管内; 34 例の計 52 例、定点当たりの報告数は 1.93 だった。奈良市 HC および郡山 HC 両管内眼科定点からの報告はなかった。郡山 HC 管内基幹定点から、細菌性髄膜炎が 1 例 (30~34 歳症例) 報告された。 (村井 記)

県北部外来状況 外来患者数は春休み中で減少している。インフルエンザは減少しているが、1 日 1 人程度は B 型陽性者がでてきている。感染性胃腸炎は細菌性とウイルス性が半々程度となり 10 才以上にでている。ロタウイルスは当院ではワクチン既接種者が多い為か乳幼児は軽度の下痢程度で少ない。暖かくなり手足口病やヘルパンギーナがでてきている。 (矢追 記)

県中部地区概況 報告数は 191 例で、前週報告の 240 例から減少。上位 5 疾患は、①感染性胃腸炎、②インフルエンザ、③水痘、④咽頭結膜熱、⑤A 群溶連菌咽頭炎 = 突発性発しんの順。感染性胃腸炎の報告数 (107 例) は、やや増加。咽頭結膜熱の報告数 (5 例) は、横ばい。水痘の報告数 (9 例) は、ほぼ横ばい。A 群溶連菌咽頭炎の報告数 (4 例) も、ほぼ横ばい。突発性発しんの報告数 (4 例) も、ほぼ横ばい。インフルエンザの報告数 (59 例) は、ほぼ半減。また、インフルエンザ定点からの報告は、桜井 HC 管内; 12 例、葛城 HC 管内; 47 例の計 59 例、定点当たりの報告数が 2.68 だった。桜井 HC 管内眼科定点から、流行性角結膜炎が 1 例報告された。桜井 HC および葛城 HC 両管内基幹定点からの報告はなかった。 (村井 記)

県中部外来状況 外来数は多くない。インフルエンザは前週に年長児で B 型が一例あったが以降ない状況。39-40℃の高熱が 3~5 日持続する例があるが、インフルエンザ・アデノ陰性。胸部レントゲン・血液検査等でも著変ない例 (同胞例も含む) が数例続いた。感染性胃腸炎が流行中、殆どロタウイルス。乳児に多いが 8~10 才児にもあり、高熱、重症傾向で輸液を要した。下痢を認めない嘔吐・腹痛程度の早期から陽性に検出される。その他水痘が流行中。風疹は見られなかった。 (岡本 記)

県南部地区概況 報告数 (第 13 週→第 14 週) は 38 例→45 例と増加。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎 (17 例→22 例)、②インフルエンザ (9 例→14 例)、③A 群溶連菌咽頭炎 (5 例→4 例)、④咽頭結膜熱 (3 例→2 例)、④水痘 (1 例→2 例)、⑥RS ウイルス感染症 (1 例→1 例) であった。 (柳生 記)

県南部外来状況 外来数は減少している。インフルエンザがまだ小学生から青壮年層で少しづつ続いて見られる。殆ど B 型。感染性胃腸炎は保育所でロタが流行、年長児や母親などの家族内感染例も見られる。ノロ、アデノもややあり。キャンピロバクターもあり。A 群溶連菌咽頭炎が増加している。RS ウイルス感染症はなかった。 (山本 記)



感染症情報センターホームページアドレス
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm>



平成 25 年 4 月 26 日 金曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報 (週報)

奈良県感染症情報センター
(奈良県保健研究センター内) *Nara IDSC*

今週の概要

- 第 16 週の感染症情報
- 奈良県結核患者情報 (平成 25 年 3 月)

第 16 週の感染症情報(4 月 15 日(月)~4 月 21 日(日))

奈良県および医療圏別発生状況 (奈良県上位 5 疾患) (5 週前からの動向)

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	7.29	→	→	→	↑↑
2	インフルエンザ	2.11	→~↓	→~↓	↓	→~↓
3	A 群溶連菌咽頭炎	0.77	→	→	→	↑
4	咽頭結膜熱	0.49	→~↑	→	↑	→~↓
4	水痘	0.49	→~↓	→~↓	↓	↑↑

全県の動きと目立って異なる推移 (定点当りの変化程度で実数ではない) を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は 179 例で、前週報告の 161 例からやや増加。上位 5 位疾患は、①感染性胃腸炎、②インフルエンザ、③A 群溶連菌咽頭炎、④水痘、⑤突発性発しん=手足口病の順。インフルエンザの報告数(49 例)は、ほぼ倍増。感染性胃腸炎の報告数(84 例)は、やや増加。突発性発しんの報告数(6 例)は、横ばい。A 群溶連菌咽頭炎の報告数(13 例)は、ほぼ横ばい。手足口病の報告数(6 例)も、ほぼ横ばい。水痘の報告数(8 例)は、減少。また、インフルエンザ定点からの報告は、奈良市 HC 管内; 23 例、郡山 HC 管内; 26 例の計 49 例、定点当たりの報告数は 1.81 で再度増加した。奈良市 HC 眼科定点から、流行性角結膜炎が 2 例報告された。また、郡山 HC 管内基幹定点からの細菌性髄膜炎の報告が、1 例(70 歳以上症例)あった。(村井 記)

県北部外来状況 外来患者数は徐々に増えている。一旦減少したインフルエンザは再び増加し、学級閉鎖の所もある。迅速検査では全て B 型陽性である。感染性胃腸炎は乳幼児ではロタウイルスによるものが多いようだ。RS ウイルス感染症も再び保育園児で出ている。手足口病も保育園児でみられる。今月 2 人風疹が成人と高校生でみられた。2 人とも大阪で罹患した模様である。(矢追 記)

県中部地区概況 報告数は 211 例で、前週報告の 173 例から増加。上位 5 位疾患は、①感染性胃腸炎、②インフルエンザ、③咽頭結膜熱、④A 群溶連菌咽頭炎、⑤水痘の順。感染性胃腸炎の報告数(114 例)は、増加。インフルエンザの報告数(58 例)も、再度増加。咽頭結膜熱の報告数(12 例)は、やや増加。水痘の報告数(6 例)は、減少。A 群溶連菌咽頭炎の報告数(9 例)は、やや減少。また、インフルエンザ定点からの報告は、桜井 HC 管内; 13 例、葛城 HC 管内; 45 例の計 58 例、定点当たりの報告数が 2.64 と再度増加した。葛城 HC 管内眼科定点から、流行性角結膜炎が 2 例報告されたが、桜井 HC および葛城 HC 両管内基幹定点からの報告は共になかった。

(村井 記)

県中部外来状況 外来数は多くない。前週末の気温の急な変化により発熱の感冒例が増加した。特に通園始めと小学 1 年生の例が多い傾向。殆ど軽症で 1~2 日の発熱のみ。インフルエンザは見られなかった。ロタウイルス陽性例があり 7~8 才の学童で小流行。水痘が続いて流行中。今週になって、4 才の伝染性紅斑例があった。(岡本 記)

県南部地区概況 報告数(第 15 週→第 16 週)は 48 例→77 例と増加。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎(27 例→57 例)、②インフルエンザ(8 例→9 例)、③A 群溶連菌咽頭炎(2 例→5 例)、④水痘(2 例→3 例)、⑤突発性発疹(4 例→2 例)、⑥咽頭結膜熱(1 例→1 例)であった。(柳生 記)

県南部外来状況 外来数はやや増加。感染性胃腸炎が多い。保育所児でロタが流行しているが、ノロとアデノも混在している様子。ロタ・アデノ陰性、ノロ迅速陽性の母子(生後 40 日乳児)同時発症例あり、3,4 日前に発熱と下痢があったという兄が感染源と推定していたが、兄が再度下痢を発症、ロタ・アデノ迅速検査を行ったところアデノ陽性であった。中学生成人の B 型インフルエンザが減少はしたがまだ終息していない模様。RS ウイルス感染症はなかったが、2 歳保育所児で、1 週間ほどの鼻汁、咳に続き発熱、咳増強、他院にて F1u 陰性例で、hMPV 迅速検査を施行したところ陽性の例があった。発熱期間は約 5 日、熱は 38~40 度、軽い湿性ないし乾性ラ音聴取、X-ray 肺炎像なしであった。5,6 日後兄 4 歳も同様の症状経過が見られたが軽症に経過した。他にも複数の保育所でも hMPV 陽性例が見られ、軽症例なども調べれば結構流行しているものと思われる。A 群溶連菌咽頭炎も少しあり。(山本 記)

感染症情報センターホームページアドレス
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm>



平成 25 年 5 月 17 日 金曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報 (週報)

奈良県感染症情報センター
(奈良県保健研究センター内) [Nara IDSC](#)

今週の概要

- 第 18 週の感染症情報
- 全数報告対象感染症発生状況 (4 月分)

第 18 週の感染症情報(4 月 29 日(月)～5 月 5 日(日))

奈良県および医療圏別発生状況 (奈良県上位 5 疾患) (5 週前からの動向)

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	4.14	→～↓	→～↓	→～↓	↓
2	インフルエンザ	1.47	→～↓	→	↓	→～↓
3	水痘	0.77	→	→	↓	↑↑
4	咽頭結膜熱	0.57	↑	→	↑	↑
5	A 群溶連菌咽頭炎	0.51	→～↓	→～↓	→～↑	↓

全県の動きと目立って異なる推移 (定点当りの変化程度で実数ではない) を太い矢印で示す。
※週データに一部追加がありましたので、定点当りの数値を訂正しています。

県北部地区概況 報告数は 138 例で、前週報告の 195 例から減少。上位 5 位疾患は、①感染性胃腸炎、②インフルエンザ、③水痘、④A 群溶連菌咽頭炎、⑤咽頭結膜熱の順。インフルエンザの報告数 (45 例) は、横ばい。咽頭結膜熱の報告数 (4 例) は、ほぼ横ばい。感染性胃腸炎の報告数 (62 例) は、減少。A 群溶連菌咽頭炎の報告数 (8 例) も、減少。水痘の報告数 (15 例) は、やや減少。また、インフルエンザ定点からの報告は、奈良市 HC 管内; 25 例、郡山 HC 管内; 20 例の計 45 例、定点当たりの報告数は 1.67 で横ばい状態。奈良市 HC および郡山 HC 両管内基幹定点と眼科定点からの報告は、すべてなかった。(村井 記)

県北部外来状況 気温の変化が激しいせいか様々な感染症が混在している。インフルエンザ、RS ウイルス感染症がまだあるかと思うと手足口病や咽頭結膜熱がみられ、感染性胃腸炎はロタウイルス、ノロウイルス、アデノウイルス、細菌性などバラバラである。(矢追 記)

県中部地区概況 報告数は 137 例で、前週報告の 139 例とほぼ横ばい。上位 5 位疾患は、①感染性胃腸炎、②インフルエンザ、③咽頭結膜熱、④A 群溶連菌咽頭炎、⑤水痘の順。咽頭結膜熱の報告数 (13 例) は、増加。感染性胃腸炎の報告数 (70 例) は、やや増加。A 群溶連菌咽頭炎の報告数 (10 例) も、やや増加。インフルエンザの報告数 (31 例) は、減少。水痘の報告数 (6 例) は、やや減少。また、インフルエンザ定点からの報告は、桜井 HC 管内; 8 例、葛城 HC 管内; 23 例の計 31 例、定点当たりの報告数は 1.41 で前週 (2.73) より減少した。

眼科定点からの報告が、桜井 HC 管内より流行性角結膜炎; 1 例、葛城 HC 管内より急性出血性結膜炎; 1 例と各々あった。基幹定点からの報告は、桜井 HC および葛城 HC 両管内共になかった。(村井 記)

※週データに一部追加がありましたので、コメントの数値を訂正しています。

県中部外来状況 外来数は連休明けで増加。発熱の例が多いが、アデノ様、扁桃腺炎など種々。インフルエンザはなかった。乳児の咳、ゼロゼロの例が多いが RS は陰性。感染性胃腸炎はノロ様の嘔吐があるが、ロタは今週に入って減少した。水痘は減少。手足口病、伝染性紅斑が 1 例ずつ。A 群溶連菌感染症はなかった。ヘルパンギーナもまだない。(岡本 記)

県南部地区概況 報告数 (第 17 週→第 18 週) は 47 例→30 例と減少。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎 (33 例→13 例)、②水痘 (0 例→6 例)、③インフルエンザ (7 例→5 例)、④咽頭結膜熱 (3 例→3 例)、⑤突発性発疹 (3 例→2 例)、⑥手足口病 (0 例→1 例) であった。(柳生 記)

県南部外来状況 第 17 週は前週に続き保育所児を中心にロタおよびノロ疑いの胃腸炎が多く見られ、中にはアデノの例もあった。第 18 週はゴールデンウィークの為 2 日間のみの診療であったが、やはり第 17 週に続き感染性胃腸炎がやや多かった。ロタは発熱や嘔吐症状の強い例が多くなった感。手足口病も 1 例あった。第 17 週ではまだ僅かにインフルエンザ B 型があった。第 18 週では認めなかったが、今週また中学生で B 型が 1 例あった。第 17 週でヒトメタニューモウイルス感染症が複数の保育所で見られ、その後も一部の保育所では 1、2 歳児クラスなどで流行しているように見受けられる。小学生の兄弟や、母親への感染例もあった。A 群溶連菌咽頭炎もあり。頸部リンパ節炎の著明な例もあった。水痘、流行性耳下腺炎は認めず。(山本 記)

感染症情報センターホームページアドレス
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm>



平成 25 年 5 月 27 日 月曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報 (週報)

奈良県感染症情報センター
(奈良県保健研究センター内) *Nara IDSC*

今週の概要

■ 第 20 週の感染症情報

第 20 週の感染症情報(5月13日(月)～5月19日(日))

奈良県および医療圏別発生状況 (奈良県上位 5 疾患) (5 週前からの動向)

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	7.69	→～↑	→～↑	→～↑	→
2	インフルエンザ	1.47	→	→～↓	→	→～↓
3	A 群溶連菌咽頭炎	1.11	→～↑	→～↑	→～↓	↑↑
4	水痘	0.86	→	→	→	→～↓
5	咽頭結膜熱	0.63	→～↑	↑	→	↑

全県の動きと目立って異なる推移(定点当りの変化程度で実数ではない)を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数(19→20週)は216→217例と増加した。上位5疾患は①感染性胃腸炎(108→121例)、②A 群溶連菌咽頭炎(29→24例)、③インフルエンザ(37→30例)、④水痘(23→16例)、⑤突発性発しん(6→10例)であった。眼科定点の報告は流行性角結膜炎が2例あった。基幹定点の報告はマイコプラズマ肺炎が1例あった。

(有山 記)

県北部外来状況 乳幼児を中心にロタウイルス胃腸炎が増加しています。保護者にも感染がみられます。水痘の流行が保育園児でみられ、大阪に通勤している方に風疹がでています。インフルエンザは B 型が地域の学校でみられ、学級閉鎖もあります。

(矢追 記)

県中部地区概況 報告数は 202 例で、前週報告の 175 例から増加。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②インフルエンザ、③水痘、④咽頭結膜熱、⑤A 群溶連菌咽頭炎の順。感染性胃腸炎の報告数(113 例)は、第 18 週以降連続での増加。インフルエンザの報告数(47 例)も、増加。咽頭結膜熱の報告数(8 例)は、ほぼ横ばい。水痘の報告数(12 例)は、やや減少。A 群溶連菌咽頭炎の報告数(7 例)も、やや減

少。依然としてインフルエンザ定点からの報告が、桜井 HC 管内;10 例、葛城 HC 管内;37 例の計 47 例で、定点当たりの報告数は 2.14 と 2 週連続での増加。眼科定点からの報告が、桜井 HC 管内より流行性角結膜炎;1 例、葛城 HC 管内より急性出血性結膜炎;1 例と各々あった。基幹定点からの報告は、桜井 HC および葛城 HC 両管内共になかった。

(村井 記)

県中部外来状況 外来数はほぼ横ばい、そう多くはない。発熱、咽頭発赤の夏風邪、手足口病、水痘、A 群溶連菌感染症など種々の様相。感染性胃腸炎は嘔吐のノロ様の例が多いがまだロタ陽性例がある。インフルエンザは終焉の印象であるが、B 型が幼稚園であったとして来院された例があり検査は陰性であった。

(岡本 記)

県南部地区概況 報告数(第 19 週→第 20 週)は 51 例→56 例と推移。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎(29 例→35 例)、②A 群溶連菌咽頭炎(3 例→8 例)、③咽頭結膜熱(3 例→5 例)、④インフルエンザ(5 例→4 例)、⑤水痘(5 例→2 例)、⑥突発性発疹(2 例→1 例)、⑥ヘルパンギーナ(0 例→1 例)であった。

(柳生 記)

県南部外来状況 連休明けの第 19 週はまだ保育所でのヒトメタニューモウイルス感染症の流行らしき状況が見られたり、近隣の中学校等で B 型インフルエンザの発生が見られた。第 20 週では他の保育所で B 型インフルエンザの流行が始まり、今週尚増加している。感染性胃腸炎はロタの流行が続いており、ロタ・アデノ陰性(ノロ疑い)家族例や、アデノ、キャンピロバクターなども見られる。A 群溶連菌咽頭炎で頸部リンパ節腫脹例もあり。37～38℃発熱、頸部リンパ節腫脹主訴で受診3歳例は第3病日入院後に高熱、発疹、眼球充血、口唇潮紅等出現、川崎病の経過であった。手足口病が1例あった。

(山本 記)

感染症情報センターホームページアドレス
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm>



平成 25 年 6 月 7 日 金曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報 (週報)

奈良県感染症情報センター
(奈良県保健研究センター内) **Nara IDSC**

今週の概要

- 第 22 週の感染症情報
- 風しんが大流行しています
- 気になる話題 これから夏に向けてのウイルス感染症にご注意 (1)

第 22 週の感染症情報 (5月27日(月)～6月2日(日))

奈良県および医療圏別発生状況 (奈良県上位 5 疾患) (5 週前からの動向)

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	5.26	→	→	→	→
2	水痘	1.11	→	→～↓	↑	→～↑
3	A 群溶連菌咽頭炎	1.06	→	→	→～↑	→～↑
4	手足口病	0.91	↑↑	↑	↑↑	↓
5	インフルエンザ	0.49	↓	↓	↓	↓

全県の動きと目立って異なる推移 (定点当りの変化程度で実数ではない) を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数 (21→22週) は 216→150 例と減少した。上位 5 疾患は ①感染性胃腸炎 (102→81 例)、②A 群溶連菌咽頭炎 (27→19 例)、③インフルエンザ (32→14 例) ④水痘 (27→12 例)、⑤咽頭結膜熱 (4→8 例) であった。眼科定点の報告は流行性角結膜炎が 1 例あった。基幹定点の報告はなかった。
(有山 記)

県北部外来状況 外来患者数は少なくなっている。感染性胃腸炎も乳幼児ではロタウイルスやアデノウイルスによるものがあるが少ない。水痘と咽頭結膜熱 (アデノウイルス) の流行が保育園児のみみられる。溶連菌咽頭炎が小学生低学年で多い所もある。インフルエンザはほぼ無くなった。
(矢追 記)

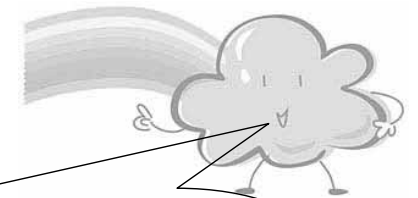
県中部地区概況 報告数は 173 例で、前週報告の 203 例から減少。上位 5 疾患は、①感染性胃腸炎、②手足口病、③水痘、④A 群溶連菌咽頭炎、⑤インフルエンザの順。手足口病の報告数 (5→20→28 例) は、増加の一途。水痘の報告数 (23 例) は、やや増加。感染性胃腸炎の報告数 (113→98→80 例) は、2 週連続での減少。インフルエンザの報告数 (29→11 例) も、減少。A 群溶連菌咽頭炎の報告数 (14 例) は、やや減

少。依然としてインフルエンザが上位 5 疾患に入っていた。葛城保健所管内眼科定点から、流行性角結膜炎の報告が 2 例あった。桜井保健所および葛城保健所管内基幹定点からの報告は、共になかった。
(村井 記)

県中部外来状況 外来数は多くない。短期の高熱の夏風邪が多い。感染性胃腸炎は多くないが持続。ノロ様の嘔吐例が多い。水痘が流行中。A 群溶連菌感染症が少し流行。風疹は父親から罹患の乳児例があった。インフルエンザは両親、兄が陽性であったとして来院されたが当該児は陰性であった。その他にはインフルエンザはなく、ほぼ終焉かと思われる。川崎病の乳児が一例あった。発熱、四肢発疹などの時期に来院されず受診時 BCG 痕変化、その他の残存症状により診断、紹介。その他、顔・四肢丘疹例が散発、エコー、コクサッキー分離依頼中。
(岡本 記)

県南部地区概況 報告数 (第 21 週→第 22 週) は 23 例→39 例と増加。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎 (15 例→23 例)、②咽頭結膜熱 (0 例→4 例)、②A 群溶連菌咽頭炎 (2 例→4 例)、②水痘 (1 例→4 例)、⑤インフルエンザ (5 例→2 例)、⑤突発性発疹 (0 例→2 例) であった。
(柳生 記)

県南部外来状況 外来数は少なくなっている。第 21 週ではインフルエンザ B 型が一部の保育所などで流行があったが、第 22 週以降は見られなくなった。感染性胃腸炎は少なくなったが、ロタ、アデノ、ノロ疑い、キャンピロバクターなどがあつた。A 群溶連菌咽頭炎少し。第 22 週でまた川崎病 (3 歳女児、発熱、頸部リンパ節腫脹で受診) があつた。手足口病、ヘルパンギーナは認めず。
(山本 記)



～風しんが大流行しています～

今年の風しんの患者数が、100 人を超えました。(例年は 0～2 人)
特に、5 月中は 59 人で、どんどん増える傾向にあります。
今回の流行の中心は、20～40 歳代で、特に男性に多いです。
奈良県でも、市町村への風しんワクチン接種費用への補助が始まっています。
この機会に、該当の方はワクチンを接種するようにして下さい。

感染症情報センターホームページ <http://www.pref.nara.jp/27874.htm>



平成 25 年 6 月 21 日 金曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報 (週報)

奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター内) *Nara IDSC*

今週の概要

- 第 24 週の感染症情報
- 全数報告対象感染症発生状況 (5 月分)
- 気になる話題 これから夏に向けてのウイルス感染症にご注意 (2)

第 24 週の感染症情報 (6 月 10 日(月) ~ 6 月 16 日(日))

奈良県および医療圏別発生状況 (奈良県上位 5 疾患) (5 週前からの動向)

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	3.14	→~↓	↓	→~↓	→~↓
2	手足口病	1.29	↑	↑↑	→	↑↑
3	A 群溶連菌咽頭炎	0.89	→~↓	→~↓	→	→
4	水痘	0.86	→~↓	↓	→~↑	↓
5	咽頭結膜熱	0.63	→~↑	↑	→~↑	↓

全県の動きと目立って異なる推移 (定点当りの変化程度で実数ではない) を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数 (23→24 週) は 155→122 例に減少した。上位 5 疾患は ①感染性胃腸炎 (55→44 例)、②手足口病 (11→20 例) ③A 群溶連菌咽頭炎 (35→14 例)、④咽頭結膜熱 (10→13 例) ⑤突発性発しん (7→8 例) であった。眼科定点の報告は流行性角結膜炎が 3 例あった。基幹定点の報告は無菌性髄膜炎が 1 例あった。

(有山 記)

県北部外来状況 感染症は、いよいよ夏型に移行してきました。ヘルパンギーナや手足口病が保育園児で増えています。手足口病は熱が無く手足の発疹が多い子が目立ちます。ヘルパンギーナは高熱が 2-3 日続き、咽頭痛も激しいようです。同様に咽頭結膜熱 (アデノウイルス) も保育園児で流行しています。一方、インフルエンザもなくなったわけではなく、1 週に 1 例程度ですがでています。全て B 型陽性です。

(矢追 記)

県中部地区概況 報告数は 136 例で、前週報告の 125 例からやや増加。上位 5 疾患は、①感染性胃腸炎、②水痘、③手足口病、④A 群溶連菌咽頭炎、⑤咽頭結膜熱の順。咽頭結膜熱の報告数 (9 例) は、やや増加。感染性胃腸炎の報告数 (52 例) は、ほぼ横ばい。A 群溶連菌咽頭炎の報告数 (13 例) は、横ばい。手足口病の報告数 (19 例) は、減少。水痘の報告数 (17 例) は、やや減少。眼科定点からの報告が、桜井保健所管内より流行性角結膜炎; 1 例あったが、基幹定点からの報告は、桜井保健所および葛城保健所両管内共になかった。

(村井 記)

県中部外来状況 外来数は横ばい。多くない。発熱、咽頭発赤中等度の夏風邪様ウイルス性咽頭炎が多く、乳児で四肢に丘疹を伴う例もある。水痘が流行中。手足口病が少しずつ増加。口腔所見が少ない傾向。他に A 群溶連菌感染症が少し。感染性胃腸炎はノロ様の嘔吐例が続いているが、軽症。頸部リンパ腺主徴、無熱の EB ウイルス感染の幼児があった。

(岡本 記)

県南部地区概況 報告数 (23→24 週) は 29→29 例と同数。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎 (17→14 例)、②手足口病 (3→6 例)、③A 群溶連菌咽頭炎 (2→4 例)、④ヘルパンギーナ (0→3 例)、⑤水痘 (1→1 例)、⑥流行性耳下腺炎 (0→1 例) であった。

(柳生 記)

県南部外来状況 外来数は少なくなった。中では感染性胃腸炎がやや多かったが、ロタはなかった。A 群溶連菌咽頭炎、水痘が少し。ヘルパンギーナが 1 例あったが、近隣の地域ではまだ流行が始まっている様子は見られなかった。手足口病も認めなかった。

(山本 記)



平成 25 年 7 月 8 日 月曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報 (週報)

奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター内) [Nara IDSC](#)

今週の概要

■ 第 26 週の感染症情報

第 26 週の感染症情報 (6月24日(月)~6月30日(日))

奈良県および医療圏別発生状況 (奈良県上位 5 疾患) (5 週間からの動向)

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	手足口病	2.41	↑	↑↑	↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	2.21	→~↓	→~↓	↓	↓
3	ヘルパンギーナ	0.85	↑↑	↑↑	→	↑↑
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.74	→~↓	→~↓	→~↓	↓
5	突発性発しん	0.50	→~↑	→	↑	↑↑

全県の動きと目立って異なる推移 (定点当りの変化程度で実数ではない) を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数 (25→26 週) は 116→134 例に増加した。上位 5 疾患は ①感染性胃腸炎 (44→41 例)、②手足口病 (22→36 例)、③ヘルパンギーナ (6→16 例)、④A 群溶連菌咽頭炎 (8→15 例)、⑤咽頭結膜熱 (10→7 例)、眼科定点の報告は流行性角結膜炎が 2 例あった。基幹定点の報告はなかった。

(有山 記)

県北部外来状況 外来は感染症が減っています。インフルエンザもまだありますが、ほとんどは夏風邪になっています。咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナがでています。ほとんどが保育園児です。今年の手足口病は夏が無く、口内炎と四肢の発疹のみの方ばかりです。感染性胃腸炎はほぼありません。

(矢追 記)

県中部地区概況 報告数は 103 例で、前週報告の 113 例からやや減少。上位 5 疾患は、①手足口病、②感染性胃腸炎、③A 群溶連菌咽頭炎、④突発性発しん、⑤水痘の順で、手足口病が感染性胃腸炎に入れ替わり第 1 位となった。手足口病の報告数 (37 例) は、増加。A 群溶連菌咽頭炎の報告数 (10 例) は、横ばい。突発性発しんの報告数 (9 例) も、横ばい。感染性胃腸炎の報告数 (30 例) は、減少。水痘の報告数 (5 例) は、やや減少。眼科定点から流行性角結膜炎の報告が、桜井 HC 管内; 2 例、葛城 HC 管内 1 例の計 3 例あった。基幹定点からの報告は、桜井 HC および葛城 HC 両管内共になかった。

(村井 記)

県中部外来状況 外来数は普通。そう多くない。夏風邪のパターンとなって来た。手足口病が流行中。生後 6 ヶ月の乳児で発熱、手足の発疹も多く、口内炎も多い例があった。ヘルパンギーナは殆ど見られない。感染性胃腸炎少しづつ続いている。水痘も流行中。その他 A 群溶連菌感染症が僅か。

(岡本 記)

県南部地区概況 報告数 (25→26 週) は 17→27 例と増加。報告のあった疾患は、①ヘルパンギーナ (4→10 例)、②手足口病 (3→9 例)、③感染性胃腸炎 (4→4 例)、④突発性発疹 (2→2 例)、⑤水痘 (0→1 例)、⑤流行性耳下腺炎 (0→1 例) であった。

(柳生 記)

県南部外来状況 咽頭発赤、数日高熱が続く夏風邪が多く、感染性胃腸炎は減少した。ヘルパンギーナや手足口病も増加しており、水疱の多い手足口病は 2、3 日高熱が出ている。

(寺田 記)



感染症情報センターホームページ
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm>



平成 25 年 7 月 19 日 金曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報 (週報)

奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター内) [Nara IDSC](#)

群溶連菌咽頭炎の報告数 (5→10 例) は、再度増加の兆し。水痘の報告数 (8 例) は、ほぼ横ばい。ヘルパンギーナの報告数 (9 例) は、やや減少。桜井 HC および葛城 HC 両管内眼科定点から、流行性角結膜炎が各々 2 例ずつ計 4 例報告されたが、両管内基幹定点からの報告は共になかった。(村井 記)

県中部外来状況 外来数はそう多くない。手足口病の流行の他、短期の高熱と咽頭発赤の夏風邪のパターン。ヘルパンギーナは少ない。四肢の発疹 (丘疹) を伴う例もある。感染性胃腸炎も少しずつ流行。その他水痘、A 群溶連菌感染症が僅かづつ続いている。風疹は小児には少ない。(岡本 記)

県南部地区概況 報告数 (27→28 週) は 27→29 例と推移。報告のあった疾患は、①手足口病 (15→14 例)、②ヘルパンギーナ (8→9 例)、③感染性胃腸炎 (1→3 例)、④咽頭結膜熱 (0→1 例)、④水痘 (1→1 例)、④無菌性髄膜炎【基幹定点】 (0→1 例) であった。(柳生 記)

県南部外来状況 幼児～小学校低学年で夏風邪が増加。高熱が 1、2 日に加え、咽頭痛や頭痛、軽度の消化器症状も伴う。手足口病の一部には、数日間の高熱のあと四肢末端に皮膚剥離もみられた。また、有熱期に異常行動 (笑い出す) のみられた例もあった。(寺田 記)

警報 ~ 県全体で手足口病が流行しています ~

警報レベル 奈良市内、桜井保健所管内、葛城保健所管内、吉野保健所管内

警報レベルの一步前 郡山保健所管内、内吉野保健所管内
(警報レベルは、疾患毎に定められています)

☆大流行した平成 23 年と同様に、コクサッキーウイルス A6 が流行していると言われています。
☆本県では、手足口病患者からエンテロウイルス 71 を検出しています。今後も検査を継続しますので、病原体定点の先生方のご協力をお願いします。
☆予防は、患者に近づかない、手洗いの励行など。患者や回復者は、特に排便後の手洗いが重要。

今週の概要

- 第 28 週の感染症情報
- 月報告対象感染症 (性感染症・薬剤耐性菌感染症) 発生状況 (6 月月報)

第 28 週の感染症情報 (7 月 8 日(月)~7 月 14 日(日))

奈良県および医療圏別発生状況 (奈良県上位 5 疾患) (5 週前からの動向)

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	手足口病	5.74	↑↑	↑↑	↑	↑
2	感染性胃腸炎	2.21	→	→~↓	→	↓
3	ヘルパンギーナ	1.15	↑	↑	↑	↑
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.71	→	→	→	↓
5	水痘	0.56	→	→	→~↓	→~↑

全県の動きと目立って異なる推移 (定点当りの変化程度で実数ではない) を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数 (27→28 週) は 154→185 例に増加した。上位 5 疾患は ①手足口病 (64→95 例) (定点あたり 5.59 と警報基準 5 を超えた。)、②感染性胃腸炎 (21→30 例)、③ヘルパンギーナ (22→21 例)、④A 群溶連菌咽頭炎 (11→14 例)、⑤水痘 (10→10 例)。眼科定点の報告は流行性角結膜炎が 1 例あった。基幹定点の報告はなかった。(有山 記)

県北部外来状況 感染症は少ない状態が続いている。保育園児を中心に手足口病が流行している。発熱はあっても 1 日程度で、発疹は多いが小さいものが多い。ヘルパンギーナは現段階では少ないプール熱 (咽頭結膜熱) は減少している。風疹も少なくなった。(矢追 記)

県中部地区概況 報告数は 166 例で、前週報告の 143 例から増加。上位 5 疾患は、①手足口病、②感染性胃腸炎、③A 群溶連菌咽頭炎、④ヘルパンギーナ、⑤水痘の順で、手足口病の定点当たりの報告数は 6.14 と前週 (5.21) より流行発生警報継続中であった。手足口病の報告数 (86 例) は、増加。感染性胃腸炎の報告数 (42 例) は、増加。A

感染症情報センターホームページ
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm>



平成 25 年 8 月 2 日 金曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター（奈良県保健研究センター内） [Nara IDSC](#)

今週の概要

- 第 30 週の感染症情報
- 流行感染症情報：手足口病

第 30 週の感染症情報（7 月 22 日(月)～7 月 28 日(日)）

奈良県および医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	手足口病	5.50	→～↑	→～↑	↑	→～↓
2	感染性胃腸炎	2.06	→	→	→	→～↓
2	ヘルパンギーナ	2.06	↑	↑	↑↑	↓
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.41	→～↓	→～↓	→	↓
5	水痘	0.35	→～↓	→	↓	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数（29→30 週）は 186→194 例と推移した。上位 5 疾患は
 ①手足口病（106→93 例）（定点あたり 5.47 と警報基準 5 を超えている。）、
 ②ヘルパンギーナ（33→45 例）、③感染性胃腸炎（19→26 例）、④水痘（7→10 例）、
 ⑤A 群溶連菌咽頭炎（9→7 例）、眼科定点の報告は流行性角結膜炎が 2 例あった。
 基幹定点の報告は細菌性髄膜炎が 1 例あった。

（有山 記）

県北部外来状況 外来患者数は学校が休みで少なくなっているが、手足口病が保育園児を中心
 に大流行している。保健研究センター依頼の精密検査では、7 月初旬依頼分でエンテ
 ロウイルス 71 型が、7 月後半依頼分でコクサッキー A6 型が報告されている。前者は発
 疹口内炎とも小さく熱も軽微、後者は発疹が大きく 38-39 度の発熱を伴う例が多い。そ
 れ以外では咽頭結膜熱やヘルパンギーナなどの夏風邪がでている。溶連菌咽頭炎も多
 くないが毎週みられる。

（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は 177 例で、前週報告の 145 例から増加。上位 5 疾患は、①手
 足口病、②感染性胃腸炎、③ヘルパンギーナ、④A 群溶連菌咽頭炎、⑤咽頭結膜熱の順
 で、手足口病の定点当たりの報告数が 6.29 と再度増加し、なお警報レベル継続中。ヘル
 パンギーナの報告数（24 例）は、ほぼ倍増。手足口病の報告数（75→88 例）は、
 再度増加。感染性胃腸炎の報告数（42 例）は、やや増加。咽頭結膜熱の報告数（6 例）
 も、やや増加。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（7 例）は、ほぼ横ばい。桜井 HC および葛
 城 HC 両管内眼科定点から、流行性角結膜炎の報告が各々順に 1 例、3 例の計 4 例あ
 ったが、両管内基幹定点からの報告は、共になかった。

（村井 記）

県中部外来状況 夏季休暇で外来数は多くない。軽度の感冒が主。手足口病が続いて流行
 中。発疹は手足末端より膝に多い傾向。口内炎は舌に大きい場合が多い印象。ヘルパ
 ンギーナは今夏は少ない。感染性胃腸炎はやや減少傾向、嘔吐が主で水様下痢を伴う
 ものもあるが、軽症。迅速ではノロ陰性。その他水痘、A 群溶連菌感染症が少し。

（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（29→30 週）は 25→11 例と減少。報告のあった疾患は、①
 手足口病（13→6 例）、②感染性胃腸炎（2→2 例）、③突発性発疹（0→1 例）、③ヘル
 パンギーナ（8→1 例）、③マイコプラズマ肺炎【基幹定点】（0→1 例）であった。

（柳生 記）

県南部外来状況 夏休みに入った影響が小・中学校の感染症は減少。手足口病やヘルパ
 ンギーナも保育所での流行はあるも患者数は多くなかった。夏かぜ様の発症でも、発熱
 遷延、咳嗽増強例には細菌感染症もあり、初診時の鑑別は困難であった。

（寺田 記）



奈良県感染症発生動向調査還元情報 (週報)

奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター内) *Nara IDSC*

流行性耳下腺炎の報告数 (4 例) は、横ばい。感染性胃腸炎の報告数 (38 例) は、やや減少。桜井 HC および葛城 HC 両管内基幹定点と眼科定点からの報告は、すべてなかった。(村井 記)

今週の概要

- 第 32 週の感染症情報
- 流行感染症情報：手足口病
- 全数把握対象感染症発生状況 (平成 25 年 7 月)
- 保健研究センター 8 月 1 日より～ヘルパンギーナの原因ウイルスについて～

第 32 週の感染症情報 (8 月 5 日(月)～8 月 11 日(日))

奈良県および医療圏別発生状況 (奈良県上位 5 疾患) (5 週間からの動向)

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北部	中部	南部
1	手足口病	5.88	→	→	→	→～↑
2	感染性胃腸炎	1.79	→	→～↓	→	→～↑
2	ヘルパンギーナ	1.79	→	→	↑	↓
4	水痘	0.56	→	→～↑	↓	↑↑
5	A 群溶連菌咽頭炎	0.29	→～↓	↓	→	→

全県の動きと目立って異なる推移 (定点当たりの変化程度で実数ではない) を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数 (31→32 週) は 229→190 例と推移した。上位 5 疾患は
 ①手足口病 (96→108 例) (定点あたり 6.35 と警報基準 5 を超えている。)、②ヘルパンギーナ (52→33 例)、③感染性胃腸炎 (32→20 例)、④水痘 (12→13 例)、⑤突発性発しん (7→7 例)、眼科定点の報告は流行性角結膜炎が 1 例あった。基幹定点の報告はなかった。(有山 記)

県北部外来状況 8 月に入り感染症はほとんどがなつかぜとなっている。手足口病が大流行しており最近では手足の発疹が大きく、多い方が多くなっている。ヘルパンギーナも少しずつ増えている。熱は 1～2 日程度 38 度以上となる。保育園の 3 歳以下の子が大部分を占めている。(矢追 記)

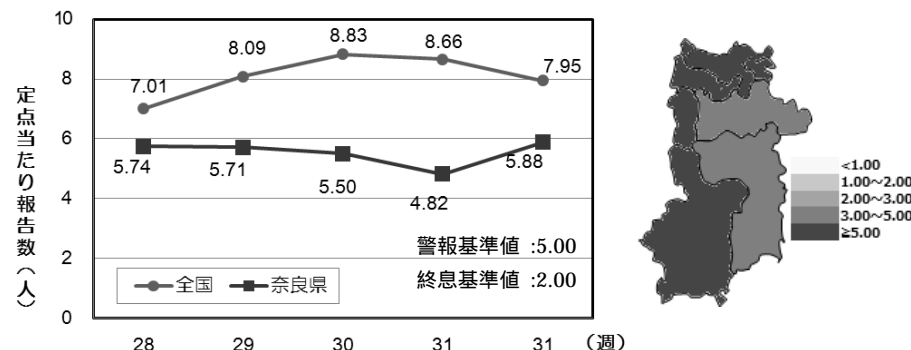
県中部地区概況 報告数は 159 例で、前週報告の 152 例からやや増加。上位 5 疾患は、①手足口病、②感染性胃腸炎、③ヘルパンギーナ、④A 群溶連菌咽頭炎、⑤流行性耳下腺炎の順。手足口病の定点当たりの報告数は 5.64 と警報レベル継続中。手足口病の報告数 (88→64→79 例) は、増減の繰り返し。ヘルパンギーナの報告数 (24→19→25 例) も、増減の繰り返し。A 群溶連菌咽頭炎の報告数 (7→2→7 例) と、再度増加。

県南部地区概況 報告数 (31→32 週) は 18→24 例と増加。報告のあった疾患は、①手足口病 (4→13 例)、②感染性胃腸炎 (3→3 例)、②水痘 (1→3 例)、②ヘルパンギーナ (7→3 例)、⑤RS ウイルス感染症 (0→1 例)、⑤突発性発疹 (3→1 例) であった。(柳生 記)

県南部外来状況 手足口病、ヘルパンギーナの流行は続いている。手足口病では、発熱の翌日に発疹が出現している例がよく見られる。また、手足以外に陰部に多数の水疱がでる患者もいた。夏カゼに伴う胃腸炎も見られたが、いずれも軽症であった。(寺田 記)

流行感染症情報：手足口病

第 32 週の奈良県全体における定点あたり報告数は 5.88 (報告数 200) となりました。郡山保健所が警報基準値 (5.00) を超え、警報発令中です。また吉野保健所は、先週一旦警報終息値 (2.00) を下回りましたが、今週は 4.00 と再度上昇しています。



保健所別定点当たり報告数

手足口病に関する Q & A (厚生労働省) が更新されています。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/hfmd.html>

予防対策についても記載があります (Q4)。





平成 25 年 8 月 30 日 金曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報 (週報)

奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター内) Nara IDSC

今週の概要

- 第 34 週の感染症情報
- 流行感染症情報：手足口病
- 保健研究センター 9 月だより～腸管出血性大腸菌感染症予防について～

第 34 週の感染症情報 (8 月 19 日(月)～8 月 25 日(日))

奈良県および医療圏別発生状況 (奈良県上位 5 疾患) (5 週間からの動向)

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	手足口病	2.50	↓	↓	→～↓	→
2	感染性胃腸炎	1.97	→	→～↑	→	→
3	ヘルパンギーナ	1.12	→～↓	↓	→	↓
4	突発性発しん	0.47	↑	→～↑	↑	↑
5	水痘	0.44	→	→	→～↓	↑

全県の動きと目立って異なる推移 (定点当りの変化程度で実数ではない) を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数 (33→34 週) は 117→105 例と推移した。上位 5 疾患は

- ①手足口病 (67→34 例) (定点あたり 2.00 と警報継続基準値と同値であった。)
- ②感染性胃腸炎 (9→26 例)、③ヘルパンギーナ (15→16 例)、④水痘 (6→9 例)、⑤突発性発しん (5→7 例)、眼科定点の報告は流行性角結膜炎が 2 例あった。基幹定点の報告はマイコプラズマ肺炎が 1 例あった。

(有山 記)

県北部外来状況 先週は夏季休診しましたので、先々週のみでの報告です。大流行の手足口病はやや数が減ってきたが、保護者に感染者が最近増えてきている。症状は幼児と同様だが発疹が大きく発疹の痛みやかゆみ強い傾向にあります。ヘルパンギーナは少ないが発症がみられます。バンビホームに通っている子に溶連菌咽頭炎が増えていきます。

(矢追 記)

県中部地区概況 報告数は 125 例で、前週報告の 117 例からやや増加。上位 5 疾患は、

- ①手足口病、②感染性胃腸炎、③ヘルパンギーナ、④A 群溶連菌咽頭炎＝突発性発しんの順。手足口病の定点当たりの報告数は 3.57→3.07 とやや減少したものの、なお警報レベル。ヘルパンギーナの報告数 (25→17→20 例) は、依然として増減の繰り返し。

感染性胃腸炎の報告数 (37 例) は、やや増加。A 群溶連菌咽頭炎の報告数 (6 例) も、やや増加。突発性発しんの報告数 (6 例) も、やや増加。手足口病の報告数 (79→50→43 例) は、減少傾向にあり。桜井 HC および葛城 HC 両管内基幹定点と眼科定点からの報告は、すべてなかった。

(村井 記)

県中部外来状況 夏季休暇終了後の 1 週間の情報です。外来数は多くない。軽度の咽頭発赤と短期の発熱の例が主。手足口病が減少傾向であるが継続して流行中。臨床像は口内炎は少なく発疹出現範囲が手足全体の広域に広がる例が多い印象。ヘルパンギーナも少しあるが流行は拡大していない様子。感染性胃腸炎は減少。その他水痘、A 群溶連菌感染症が僅か。マイコプラズマ様の咳嗽例があり経過観察中。

(岡本 記)

県南部地区概況 報告数 (33→34 週) は 31→22 例と減少。報告のあった疾患は、

- ①手足口病 (9→8 例)、②感染性胃腸炎 (10→4 例)、③水痘 (2→3 例)、③突発性発疹 (2→3 例)、⑤ヘルパンギーナ (4→2 例)、⑥A 群溶連菌咽頭炎 (4→1 例)、⑥流行性角結膜炎【眼科定点】 (0 例→1 例) であった。

(柳生 記)

県南部外来状況 手足口病、ヘルパンギーナ等夏カゼは減ってきている。かわって呼吸器症状を訴える子どもが増加、軽症だが遷延する例もある。高学年で下痢・嘔吐例もみられた。

(寺田 記)

感染症情報センターホームページ
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm>





平成 25 年 9 月 13 日 金曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター（奈良県保健研究センター内） [Nara IDSC](#)

今週の概要

- 第 36 週の感染症情報
- 流行感染症情報：手足口病
- 全数把握対象感染症発生状況（平成 25 年 8 月）

◆ 第 36 週の感染症情報（9 月 2 日（月）～9 月 8 日（日））

奈良県および医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週間からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	手足口病	2.59	→～↓	→	↓	↓
2	感染性胃腸炎	2.15	→	→	→	→
3	ヘルパンギーナ	0.71	↓	↓	→～↓	↓
4	水痘	0.26	→～↓	→～↓	↓	→～↓
5	突発性発しん	0.21	↓	→～↓	→～↓	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数（35→36 週）は 133→123 例と推移した。上位 5 疾患は①手足口病（58→62 例）（定点あたり 3.65 と警報継続基準値を上回っている。）、②感染性胃腸炎（36→29 例）、③ヘルパンギーナ（20→10 例）、④水痘（7→7 例）、⑤突発性発しん（9→4 例）、眼科定点の報告は流行性角結膜炎が 4 例あった。基幹定点の報告は無菌性髄膜炎が 1 例あった。（有山 記）

県北部外来状況 例年通り患者数は減少している。流行していた手足口病とヘルパンギーナは週毎に半減している。CA6 型が流行していた 8 月初旬頃に手足口病に罹患した子で爪甲の剥離がみられるようになってきた。当院の近くの保育園で RS ウイルス感染症が 2 歳以下の子に流行している。（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は 91 例で、前週報告の 112 例から減少で 2 週連続。上位 5 疾患は、①感染性胃腸炎、②手足口病、③ヘルパンギーナ、④A 群溶連菌咽頭炎＝突発性発しんの順。手足口病の定点当たりの報告数は 1.79（桜井保健所管内；1.57、葛城保健所管内；2.00）で、終息基準値（2）を下回った。また、感染性胃腸炎が手足口病に入れ替わり第 1 位となった。感染性胃腸炎の報告数（38 例）は、やや増加。手足口病の報告数（25 例）は、4 週連続での減少。ヘルパンギーナの報告数（20 例→17 例→

14 例）は、減少に転じた。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（3 例）は、やや減少。突発性発しんの報告数（3 例）も、やや減少。葛城保健所管内眼科定点から、流行性角結膜炎の報告が 1 例あったが桜井保健所および葛城保健所管内基幹定点からの報告は共になかった。（村井 記）

県中部外来状況 外来数はそう多くない。手足口病は減少傾向ではあるが続いて流行中。CA6 型が主との情報、口内炎は少なく、発疹が手足全体に散在する例が多い傾向。成人への感染例もあった。ヘルパンギーナが増加中。その他水痘も僅かずつ流行。感染性胃腸炎はキャンピロ、ウイルス様等が見られるがロタ、ノロ様は少ない。RS、マイコプラズマはなかった。（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（35→36 週）は 14→9 例と推移。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎（7→6 例）、②水痘（0→1 例）、②手足口病（2→1 例）、②マイコプラズマ肺炎【基幹定点】（0→1 例）であった。（柳生 記）

県南部外来状況 夏かぜは減少。上気道感染症が増加してきている。一部には肺炎併発や喘息発作誘発例もみられる。また、ウイルス性の胃腸炎も増えてきたが、ノロ、ロタの迅速検査陰性であった。（寺田 記）

【全数把握対象感染症発生状況（平成 25 年 8 月）】

平成 25 年 8 月に奈良県内の保健所に届出のあった全数把握対象感染症は、以下のとおりです。

8 月報告患者数（平成 25 年 9 月 10 日現在）

類型	疾患名\保健所名	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野	計
2 類	結核	10	12	3	7	0	1	33
3 類	腸管出血性大腸菌感染症	3	2	2	1	0	1	9
4 類	レジオネラ症	1	1	0	0	0	0	2
5 類	後天性免疫不全症候群	0	0	1	0	0	0	1
5 類	風しん	1	0	1	2	0	0	4

奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター（奈良県保健研究センター内） [Nara IDSC](#)

今週の概要

- 第 38 週の感染症情報
- 流行感染症情報(1)：手足口病
- 流行感染症情報(2)：RS ウイルス感染症
- 保健研究センター 10 月便り ～サポウイルス、アストロウイルスについて～

第 38 週の感染症情報（9 月 16 日(月)～9 月 22 日(日)）

奈良県および医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週間からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	1.65	→	→～↓	→	→
2	RS ウイルス感染症	1.35	↑↑	↑	↑↑	↑↑
3	手足口病	1.21	↓	↓	↓	↓
4	水痘	0.59	→～↑	↑	→～↓	↑
5	ヘルパンギーナ	0.35	↓	→～↓	↓	→～↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数（37→38 週）は 123→82 例と推移した。上位 5 疾患は①手足口病（45→26 例）（定点あたり 1.53 と警報継続基準値 2 を下回った。）②感染性胃腸炎（28→20 例）、③水痘（12→15 例）、④ヘルパンギーナ（15→8 例）、⑤RS ウイルス感染症（6→5 例）、眼科定点の報告は流行性角結膜炎が 1 例あった。

（有山 記）

県北部外来状況 朝晩はかなり涼しくなったので、所謂風邪は増えてきたが感染症の対象疾患はほとんどありません。手足口病やヘルパンギーナも減少が続いています。保育園で流行がみられた RS ウイルス感染症も減少しました。

（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は 84 例で、前週報告の 100 例から減少。上位 3 疾患は、①感染性胃腸炎、②RS ウイルス感染症、③手足口病の順で、以下、咽頭結膜熱、A 群溶連菌咽頭炎、突発性発疹、ヘルパンギーナ（すべて 3 例）の 4 疾患が、同順で続いていた。RS ウイルス感染症の報告数（2→12→25 例）は、ほぼ倍増し増加の一途。感染性胃腸炎の報告数（30 例）は、前週に引き続き減少。手足口病の報告数（15 例）は、

第 33 週より連続しての減少。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（11→3 例）は、一転減少した。ヘルパンギーナの報告数（3 例）は、4 週連続で減少。桜井保健所および葛城保健所管内眼科定点と基幹定点からの報告は、すべてなかった。

（村井 記）

県中部外来状況 気温の変化と共に外来数は増加。鼻水、咳等の感冒が主となり、ヘルパンギーナ、手足口病は明らかに減少し、夏風邪パターンは変化してきた。足全体に細かい粟粒疹を認め、膝、手先に手足口病様水疱が数個併せて散在する幼児例がありウイルス分離提出中。乳児の咳とゼロゼロする例などやや長引く例があるが、RS はまだない。感染性胃腸炎はキャンピロ陽性例があったが、そう多くない。登録疾患は少なく、他に A 群溶連菌感染症がわずか。

（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（37→38 週）は 13→28 例と増加。報告のあった疾患は、①RS ウイルス感染症（1→16 例）、②感染性胃腸炎（5→6 例）、③水痘（1→3 例）、④突発性発疹（1→1 例）、④ヘルパンギーナ（1→1 例）、④流行性角結膜炎【眼科定点】（2→1 例）であった。

（柳生 記）

県南部外来状況 呼吸器症状主体の感染症が増加している。ほとんどが軽症であったが、乳幼児に RS ウイルス感染症がみられる。市内某保育所 2 歳児が同日入院し、咳嗽時にはチアノーゼも出現した。

（寺田 記）

9 月 24 日（火）～30 日（月）は結核予防週間です。
結核の初期症状は、せき・たん・微熱など、かぜによく似ています。かぜ症状が続く場合は早めに医療機関を受診しましょう。

参考（厚生労働省ホームページ）

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekaku-kansenshou03/index.html

奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター（奈良県保健研究センター内） *Nara IDSC*

報告数（28 例）は、やや減少。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（6 例）も、やや減少。桜井 HC および葛城 HC 両管内眼科定点から、流行性角結膜炎の報告が、各々順に 4 例、1 例の計 5 例あったが、両管内基幹定点からの報告は共になかった。

（村井 記）

県中部外来状況 外来数は一時増加に見えたが、現在多くない。軽度の感冒程度が多く、ヘルパンギーナ等夏風邪も減少し登録疾患は少ない状況。RS 気管支炎は多くない。感染性胃腸炎も多くなさく口タもまだない。

（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（39→40 週）は 15→24 例と増加。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎（5→13 例）、②RS ウイルス感染症（4→3 例）、③手足口病（3→3 例）、④水痘（0→2 例）、⑤咽頭結膜熱（0→1 例）、⑤突発性発疹（0→1 例）、⑤ヘルパンギーナ（1→1 例）であった。

（柳生 記）

県南部外来状況 手足口病、ヘルパンギーナは散見するも減少。RS ウイルス感染症は依然と多い。入院例は炎症反応亢進を認めた。また、10 月に入ってからウイルス性胃腸炎が増加、特にノロウイルス様に嘔吐が半日～1 日続く例がみられた。

（寺田 記）

今週の概要

- 第 40 週の感染症情報
- 病原体（ウイルス）検出情報（平成 25 年 9 月）

第 40 週の感染症情報（9 月 30 日(月)～10 月 6 日(日)）

奈良県および医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	2.06	→	→	→	↑
2	手足口病	0.91	↓	↓	→～↓	↑↑
3	RS ウイルス感染症	0.76	→～↑	↑	→～↑	→～↓
4	水痘	0.65	↑	→～↑	↑	↑
5	突発性発しん	0.41	→～↑	→～↑	→～↑	→～↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数（39→40 週）は 69→86 例と推移した。上位 5 疾患は、①感染性胃腸炎（23→29 例）、②手足口病（19→16 例）、③水痘（9→14 例）、④RS ウイルス感染症（6→9 例）、⑤突発性発しん（4→7 例）、眼科定点の報告は流行性角結膜炎が 3 例あった。基幹定点の報告はなかった。

（有山 記）

県北部外来状況 寒暖の差が一日で激しく、いわゆる風邪の人は増えています。一方、対象感染症はほとんどありません。そろそろ夏風邪も終わりのようです。RS ウイルス感染症は時々みられます。2 才以上になると咳は目立たず鼻水と熱は朝無く夕方から上昇する子があります。

（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は 84 例で、前週報告の 83 例とほぼ変わらず。上位 3 疾患は、①感染性胃腸炎、②RS ウイルス感染症、③手足口病で、以下 A 群溶連菌咽頭炎、水痘、突発性発しん（すべて 6 例）が同順で続いていた。RS ウイルス感染症の報告数（14 例）は、やや増加した。手足口病の報告数（12 例）も、やや増加した。水痘の報告数（6 例）は、横ばい。突発性発しんの報告数（6 例）は、ほぼ横ばい。感染性胃腸炎の

感染症情報センターホームページ

<http://www.pref.nara.jp/27874.htm>

奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター（奈良県保健研究センター内）[Nara IDSC](#)

今週の概要

- 第 42 週の感染症情報
- 保健研究センター 10 月日より② ～流行が早まっている RS ウイルス感染症～

◆ 第 42 週の感染症情報（10月14日(月)～10月20日(日)）

奈良県および医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	2.00	→	→～↑	→	↓
2	RS ウイルス感染症	1.06	→～↑	↑	→～↑	→～↓
3	A 群溶連菌咽頭炎	0.41	→～↑	→～↑	→	↑↑
4	水痘	0.38	→～↓	↓	→	→～↑
4	手足口病	0.38	↓	↓	↓	→

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数（41→42週）は74→77例と推移した。上位5疾患は、①感染性胃腸炎（34→36例）、②RS ウイルス感染症（6→12例）、③水痘（11→6例）、③手足口病（8→6例）、⑤A 群溶連菌咽頭炎（5→5例）、⑤突発性発しん（7→5例）。眼科定点の報告は流行性角結膜炎が1例あった。基幹定点の報告はなかった。

（有山 記）

県北部外来状況 かぜと喘息の方は増加しているが、対象感染症は依然として少ない。感染性胃腸炎は成人でノロウイルスを疑う例はあるが子供はいない。一旦減少した RS ウイルス感染症が再び出てきているが、重症例はみとめない。夏風邪はほぼ終息した模様である。

（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は75例で、前週報告の97例から減少。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②RS ウイルス感染症、③A 群溶連菌咽頭炎、④手足口病、⑤水痘の順。RS ウイルス感染症の報告数（20例）は、第39週より増加傾向あり。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（8例）は、横ばい。感染性胃腸炎の報告数（29例）は、減少。手足口病の

報告数（6例）も、減少。水痘の報告数（5例）は、やや減少。桜井 HC および葛城 HC 両管内基幹定点からの報告は共になかったが、桜井 HC 管内眼科定点から、流行性角結膜炎が1例報告された。

（村井 記）

県中部外来状況 外来数は曜日により変動があるが、増加傾向。感冒、喘息発作、予防接種が多いが登録疾患は多くない。RS 気管支炎様の乳児例が増えてきており、高熱、咳の多い比較的重い経過の例もある。マイコプラズマ様の学童例もあった。感染性胃腸炎は少なくロタはまだない。手足口病が僅かにあり、水痘と紛らわしくウイルス分離提出中。インフルエンザはまだなく検査実施例もまだない。

（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（41→42週）は13→13例と推移。報告のあった疾患は、①RS ウイルス感染症（2→4例）、②感染性胃腸炎（4→3例）、③水痘（1→2例）、③突発性発疹（1→2例）、⑤A 群溶連菌咽頭炎（0→1例）、⑤手足口病（0→1例）であった。

（柳生 記）

県南部外来状況 夏カゼはほとんど見られない。RS ウイルス感染症も減少。朝夕の気温低下によるものと思われる軽症の呼吸器感染症は増加。また胃腸炎も散見される。原因菌不明だが咽頭軽度発熱、突然の高熱の乳幼児が熱性痙攣で数名搬送された。髄液は正常、インフルエンザも陰性であった。

（寺田 記）

感染症情報センターホームページ

<http://www.pref.nara.jp/27874.htm>



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター（奈良県保健研究センター内） *Nara IDSC*

数（3 例）は、やや減少。桜井 HC および葛城 HC 両管内基幹定点からの報告は共になかったが、桜井 HC 管内眼科定点から、流行性角結膜炎が 1 例報告された。

（村井 記）

県中部外来状況 外来数は増加中。軽症の感冒が主で、その他種々雑多の様相。RS 気管支炎は増加なし。A 群溶連菌感染症例、流行性耳下腺炎が少し。水痘は減少。感染性胃腸炎が流行中、母と幼児・乳児の 3 人、母と乳児の 2 人の嘔吐・下痢の家族例があったがノロ、ロタ陰性。インフルエンザはまだない。

（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（43→44 週）は 14→8 例と減少。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎（4→4 例）、②RS ウイルス感染症（5→1 例）、③水痘（0→1 例）、④手足口病（1→1 例）、⑤マイコプラズマ肺炎【基幹定点】（0→1 例）であった。

（柳生 記）

県南部外来状況 気温低下に伴い軽症呼吸器疾患は増加。一部マイコプラズマ感染症もみられたが外来で対応できた。胃腸炎も少なく、対象感染症は少ない。

（寺田 記）

今週の概要

- 第 4 4 週の感染症情報
- 気になる話題～冬季の感染症 ノロウイルスにご注意…～

第 44 週の感染症情報（10月28日(月)～11月3日(日)）

奈良県および医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	2.15	→	→～↑	→	→～↓
2	RS ウイルス感染症	0.91	→	→～↑	→	↓
3	A 群溶連菌咽頭炎	0.65	↑	↑↑	→	↓
4	水痘	0.44	→	→～↓	→	→
5	手足口病	0.38	→～↓	→～↓	↓	→～↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数（43→44 週）は 81→94 例と推移した。上位 5 疾患は①感染性胃腸炎（34→40 例）、②A 群溶連菌咽頭炎（7→14 例）、③RS ウイルス感染症（8→12 例）、④手足口病（10→9 例）、⑤水痘（10→7 例）
眼科定点の報告は流行性角結膜炎が 2 例あった。基幹定点の報告は細菌性髄膜炎 1 例、マイコプラズマ肺炎が 1 例あった。

（有山 記）

県北部外来状況 感染症は目立った増加はみられません。気温の低下に伴い風邪の方は増加しています。感染性胃腸炎の流行の兆しはありません。

（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は 73 例で、第 42 週と同レベルで前週報告の 94 例からは減少。上位 5 疾患は、①感染性胃腸炎、②RS ウイルス感染症、③A 群溶連菌咽頭炎、④水痘、⑤手足口病で、感染性胃腸炎が再度第 1 位であった。水痘の報告数（7 例）は、やや増加。感染性胃腸炎の報告数（29 例）は、横ばい。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（8 例）は、ほぼ横ばい。RS ウイルス感染症の報告数（18 例）は、ほぼ半減。手足口病の報告

感染症情報センターホームページ <http://www.pref.nara.jp/27874.htm>



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター（奈良県保健研究センター内） [Nara IDSC](#)

今週の概要

- 第 46 週の感染症情報
- 全数把握対象感染症発生状況（平成 25 年 10 月）

◆ 第 46 週の感染症情報（11 月 11 日(月)～11 月 17 日(日)）

奈良県および医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	3.94	↑	→～↑	↑	↑↑
2	RS ウイルス感染症	0.88	→	→～↑	→～↓	→
3	水痘	0.47	→	→	→	↓
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.38	→	→	→～↓	↓
5	突発性発しん	0.24	→～↓	→～↓	→	↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数（45→46 週）は 115→92 例と推移した。上位 5 疾患は
 ①感染性胃腸炎（62→53 例）、②RS ウイルス感染症（22→17 例）、③水痘（9→9 例）、④A 群溶連菌咽頭炎（5→8 例）、⑤突発性発しん（6→3 例）。
 眼科定点、基幹定点の報告はなかった。（有山 記）

県北部外来状況 咳と鼻水の感冒が多いが、寒さとともに冬型の感染症が増え始めました。
 嘔吐ばかりでほとんど下痢の無い例が多いが、嘔吐と下痢がある例ではノロウイルスが
 迅速検査で陽性に出ている。保育園児と成人にみられる。一旦減少していた鼻水と咳と
 熱が 1 日のうちで上がったり下がったりする RS ウイルス感染症が増加してきた。イン
 フルエンザはまだみられない。（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は 107 例で、前週報告の 94 例から増加。上位 5 疾患は、
 ①感染性胃腸炎、②RS ウイルス感染症、③水痘、④咽頭結膜熱=A 群溶連菌咽頭炎の
 順。感染性胃腸炎の報告数（70 例）は、増加。咽頭結膜熱の報告数（5 例）は、やや
 増加。水痘の報告数（7 例）は、横ばい。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（5 例）は、ほぼ
 横ばい。RS ウイルス感染症の報告数（11 例）は、やや減少。桜井 HC および葛城 HC
 両管内基幹定点と眼科定点からの報告は、すべてなかった。（村井 記）

県中部外来状況 外来数は増加しているが、まだそう多いという程でない。鼻・咳・短期
 の発熱等の冬の感冒パターンが主。本日（46 週）6 才女児で今シーズン当院初のイン
 フルエンザ A 型があり、40℃の高熱持続。保護者の話で RS、アデノの流行はあると
 の事であるが迅速陽性例はない。感染性胃腸炎はノロ様の嘔吐例、ロタ様の水様便例は
 あるがともに迅速は陰性。その他、水痘、流行性耳下腺炎が流行。（岡本 記）

県南部地区概況 報告数（45→46 週）は 8→16 例と増加。報告のあった疾患は、
 ①感染性胃腸炎（7→11 例）、②RS ウイルス感染症（0→2 例）、③咽頭結膜熱（0→2 例）、④突発性発疹（0→1 例）であった。（柳生 記）

県南部外来状況 感染性胃腸炎が増加。嘔吐中心のノロウイルス様のものや、高熱、下痢
 も遷延し家族内で発生、感染力の強いものなど複数の病態がみられる。また、RS ウイ
 ルス感染も増加してきた。インフルエンザの流行はまだみられない。（寺田 記）

【全数把握対象感染症発生状況（平成 25 年 10 月）】

平成 25 年 10 月に奈良県内の保健所に届出のあった全数把握対象感染症は、以下の
 とおりです。

10 月報告患者数（平成 25 年 11 月 21 日現在）

類型	疾患名\保健所名	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野	計
2 類	結核	7	8	3	2		4	24
3 類	腸管出血性大腸菌	1	2	4	3		1	11
4 類	デング熱			1				1
4 類	レジオネラ症			1	1			2
5 類	劇症型溶血性 レンサ球菌			1				1
5 類	後天性免疫不全 症候群			2				2
5 類	梅毒			1				1
5 類	風しん				1			1



感染症情報センターホームページ
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm>

奈良県感染症情報

平成25年 第48週(11月25日～12月1日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

■ 小児科外来情報

今回より週報を大幅にリニューアルしました

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たりの患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	4.68	(4.00)	↑	↗	↑	↑
2	A群溶連菌咽頭炎	1.00	(0.62)	↑	↗	↗	↑
3	RSウイルス感染症	0.94	(0.91)	→	→	↘	↗
4	水痘	0.68	(0.59)	↗	↑	→	↓
5	咽頭結膜熱	0.59	(0.35)	↗	↗	↗	↗

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

◆ 奈良県内全域で、感染性胃腸炎が増加傾向です。

(説明) ノロウイルスは冬季に流行し、主な症状は、嘔吐、下痢、微熱など。潜伏期間は平均1から2日。患者年齢層は生後1歳から学童児(保育園、小学校)、老人層(福祉施設など)などで多く発生。二枚貝(牡蠣)の生食には注意が必要(十分に加熱する)。ごく少量(10~100個粒子程度)でも体内に入ると感染する(感染力は強い)。現在、特効薬、ワクチンはなく、手洗いなどの一般的な感染予防対策の励行が必要。

◆ 奈良県内全域で咽頭結膜熱(プール熱)の再流行の兆しがあります。

(説明) プール熱は、のどの炎症や発熱、結膜炎の症状が出るアデノウイルスによる急性ウイルス性感染症。タオルやドアノブなど患者が触れたものを介してうつり、保育園、小学校などで多く発生。主に夏場に流行するが、国立感染症研究所によると1999年より秋と春にも小さな山がみられるようになっている。対症療法が中心。うがいや手指の消毒など一般的な感染予防対策の励行が必要。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

寒くなり感染症もすっかり冬型に移行しました。B型インフルエンザによる学級閉鎖が奈良市の小学校で起きています。一方保育園児でも迅速検査ではA型がみられます。症状は例年通りです。今後流行が拡大するかは局地的です。ノロウイルスによる感染性胃腸炎も流行し始めています。学校閉鎖になった小学校もあります。今年は嘔吐と腹痛が主体で下痢症状はあまり目立たない場合が多い印象です。保育園の乳幼児を中心にRSウイルス感染症の流行も依然として続いています。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は微増程度、日により少ない日もある状況。軽度の感冒が主。RSは減少し殆ど見られなくなった。発疹も伴うA群溶連菌感染症が数例あったが流行と言うほどではない。水痘が小流行、感染性胃腸炎はノロ様の嘔吐の例が多いが検査実施例は少ない。水様下痢例が増加しているがロタはなかった。インフルエンザは2W前に2例を認め、以降なかったが5日(49週)9才姉・7才弟のA型インフルエンザがあった。

南部地区(県立五條病院小児科)

感染性胃腸炎が増加。ノロウイルス感染様の嘔吐が主症状のものが多いが、カンピロバクター腸炎の兄妹例やロタウイルス胃腸炎の姉弟例もあった。インフルエンザは当科では発生していない。

奈良県感染症情報

平成25年 第50週(12月9日～12月15日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

■ 小児科外来情報

■ 月報告対象感染症(性感染症・薬剤耐性菌感染症)発生状況(11月月報)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たりの患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	8.94	(7.21)	↑	↑	↑	→
2	RSウイルス感染症	1.32	(1.59)	↗	→	↗	↑
3	咽頭結膜熱	1.12	(0.53)	↗	↗	↑	↗
4	水痘	0.94	(0.71)	↑	↑	↑	↗
5	A群溶連菌咽頭炎	0.71	(0.62)	↗	↘	↑	↗

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

◆ 北部・中部で、感染性胃腸炎が引き続き増加傾向です。近隣府県でも増加傾向です。

(説明) ノロウイルスは冬季に流行し、主な症状は、嘔吐、下痢、微熱など。特効薬、ワクチンはなく、手洗いなどの一般的な感染予防対策の励行が必要。手洗いは常に爪を短く切って、指輪等はずし、石けんを十分泡立て、ブラシなどを使用して手指を洗浄する。すすぎは温水による流水で十分に行い、清潔なタオル又はペーパータオルで拭く。(参考) 手洗いの手順リーフレット -厚生労働省ホームページ-
http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/dl/link01-01_leaf02.pdf

◆ 奈良市、葛城保健所管内で、咽頭結膜熱(プール熱)が6才以下の子供で流行しています。

(説明) プール熱は、のどの炎症や発熱、結膜炎の症状が出るアデノウイルスによる急性ウイルス性感染症。主に夏場に流行するが、温水プール等の通年型のプール水を介した感染も患者の増加に關与していると推察されている。対症療法が中心。うがいや手指の消毒など一般的な感染予防対策の励行が必要。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

インフルエンザや感染性胃腸炎が増えてきたが、予防接種を除けば外来患者数は多くない。インフルエンザはA型とB型の両方がみられ、流行前期の状態と思われる。本格的な流行は正月明けか? 感染性胃腸炎は迅速検査でノロウイルスが陽性である。嘔吐下痢発熱の程度は例年通り軽症の例が多い。RSウイルス感染症や咽頭結膜熱が幼児で流行している。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数はこの時期にしては多くない。感冒、感染性胃腸炎等冬の感染症が種々雑多の様相。感染性胃腸炎はノロ様の嘔吐例が殆ど。学童に多い。2人の子供とその両親の一家中の例もあった。経過はほぼ一日で軽快。嘔吐が中心で下痢は少ないが、中に水様下痢を呈する例がある。ロタはない。他に流行性耳下腺炎、A群溶連菌感染症、水痘がすこずつ。RSは減少。インフルエンザはその後みられない。

南部地区(県立五條病院小児科)

嘔吐を主症状とする胃腸炎は、12月第1週をピークに第2週以降減少してきた。ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱も散見されている。成人で先行していたA型インフルエンザが小児例でも増加しつつある。高熱・呼吸器症状で臨床症状は例年と同じと思われる。

奈良県感染症情報

平成 25 年 第 52 週(12 月 23 日～ 12 月 29 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

！！ インフルエンザが流行の兆しをみせています ！！

平成 25 年 第 52 週(12 月 23 日(月)～12 月 29 日(日))における県内の一定点医療機関当たりのインフルエンザ患者の報告数は 0.97 と、ほぼ横ばいで推移しています。今後、本格的にインフルエンザの流行シーズンを迎えるものと考えられます。体調管理に注意し、予防に努めましょう。

今週の概要

■ 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たりの患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	6.76	(8.29)	→	→	→	→
2	RS ウイルス感染症	2.15	(1.97)	↑	↑	↗	↑
3	水痘	1.44	(0.97)	↑	↗	↑	↑↑
4	インフルエンザ	0.98	(1.30)	↑	↑	↑	↘
5	咽頭結膜熱	0.62	(0.71)	→	↘	→	↑

発生状況： 大流行 ■ 流行 ■ やや流行 ■ 少し流行 ■ 散発 ■ (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減：過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

◆ インフルエンザが流行シーズン入りしています。

(説明) インフルエンザを予防するには、流行前のワクチン接種、飛沫感染対策としての咳エチケット、外出後の手洗い、適度の湿度の保持、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、人混みや繁華街への外出を控える。

(参考) インフルエンザ Q&A (厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/qa.html>

♣ 小児科外来情報 ♣

北部地区(矢追医院)

年末になったが、例年に比べ外来患者数は少ない。乳幼児では RS ウイルス感染症が多いが気管支炎まで増悪するものは少ない。水痘も保育園児を中心に流行しだした。感染性胃腸炎は幼児から成人までまんべんなくみられる。症状は軽症が多い。インフルエンザは当院では最近みられなくなっている。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は日によって変動あるがインフルエンザの流行が未だない分、例年より多くない状況。アデノ、またはインフルエンザを疑う咽頭発赤例が主、但しインフルエンザ陰性。RS 気管支炎、迅速陽性例が数例。感染性胃腸炎は嘔吐が主のノロ様例が流行中。ロタはない。A 群溶連菌感染症、水痘が流行中。インフルエンザは今冬まだ3例あったのみで、その後増加なし。

南部地区(県立五條病院小児科)

インフルエンザが増加している。大部分が A 型だが、B 型も混じっている。B 型のほうが咳が少ない印象がある。胃腸炎も依然として流行が続いている。幼児では水痘が多い。RS ウイルス感染や手足口病も数名受診した。